Vol.75通巻866号　平成6年5月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182

建築と社会

Architecture and Society

5 1994

特集

明日に向かって―会員作品



日本建築協会



空　間　無　限

太陽光の角度によって時と共に変化する壁面
タイルのわずかな凹凸が表情を際立たせる。
ある時は壁面の背後に別の空間を感じさせるほど微妙な
無限のリズムの中の陰影、
タイル一枚一枚がまるで意思をもっているかのように語りかけてくる。
TOTOエクステリアタイル。

TOTOエクステリアタイル

カタログをご希望の方は、〒530 大阪市北区曽根崎2-3-7 梅新第一生命ビル東館 東陶機器㈱ 大阪支社までご請求ください。☎06(364)1181

会告

会員の受賞

このたび、下記会員の諸氏は、建設界における多年の功績によって、表彰を受けられました。ここに誌して、その栄誉をお慶び申し上げます。

●勲三等旭日中綬章
有光　弘氏
（元住友軽金属工業㈱取締役社長）

●勲三等瑞宝章
塚田欽一郎氏
（㈱トーエネック代表取締役社長）

●勲四等旭日小綬章
上中　正儀氏
（住江織物㈱代表取締役会長）

●勲四等瑞宝章
篠原　英幸氏（第一工業㈱取締役会長）

●勲五等双光旭日章
市川　宏氏（日本建築協会会長）

●大阪府知事表彰
三品　哲夫氏
森上文夫氏
（㈱日本セメント防水剤製造所代表取締役）

通常総会開催通知

平成６年度第１回通常総会を下記のとおり開催いたしますので、何卒ご出席下さいますようお願い申し上げます。

社団法人 日本建築協会会長
市川　宏

と　き　平成 6 年 6 月 22 日(水)
午後５時30分～６時

ところ　社団法人日本建築協会会議室
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第３ビル21階

議　題　(1)平成５年度事業報告並びに決算報告承認の件
(2)平成６年度事業計画並びに収支予算承認の件
(3)その他

「こんな看板、見つけました」

―「建築と社会」であなたの投稿をお待ちしています―



「建築と社会」８月号で「まちなかの看板」（仮称）をテーマに特集を組むことになりました。

看板は都市景観の質を左右する重要な要素であり、街の活気を示すバロメーターであるともいわれています。看板といえば、まず繁華街のネオンや雑居ビルのそで看板、屋上の広告塔、野立て看板などを思い浮かべますが、なかには思わず笑ってしまったり首をひねるものもあり、実態は千差万別です。道頓堀の“カニ”はつとに有名ですが、あなたが通り過ぎた街のどこかに、あなただけが知っている看板があるのではないでしょうか。

そこで、「こんな看板、見つけました」と題して、あなたがまちなかで見つけたスマートな看板、ユニークな看板、派手な看板、邪魔な看板、古い看板、変な看板、ハイテクを駆使した看板、意味不明の標識類…を、写真とともに「建築と社会」誌上で紹介することを企画いたしました。

みなさまの多数のご投稿をお待ちしております。

【投稿要領】

●原稿内容
看板をとらえた写真とそのコメントをお送り下さい。その所在の国内外は問いません。なお、紙面が限られていますので、投稿はひとり１点とします。

★写真……気に入ったアングルの写真を１枚。サービス判～キャビネ判の大きさ。光沢のある仕上げのモノクロまたはカラープリント。

★コメント…200字程度。

●原稿締切
1994年６月30日(木)

●送付先
社団法人　日本建築協会　編集部
〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-348-0635　FAX.06-348-0634

●備考
(1)写真は、返却いたしません。
(2)採用分には図書券を進呈します。
(3)この頁は、モノクロ印刷とカラー印刷で構成する予定です。

㈳日本建築協会編
『建築設計者のための設備知識』刊行
割引価格で頒布

このたび㈳日本建築協会の編著、㈱オーム社の出版で『建築設計者のための設備知識』を刊行いたしました。

この著書は、本会機関誌「建築と社会」1990年～1992年に３回にわたり特集した内容をベースに、環境問題にゆれる現在の社会状況を織り込み、最新の情報を盛り込むべく新たに書き起こしたもので、執筆には、東畑建築事務所、日建設計、安井建築設計事務所、大阪ガス、関西電力の設備設計者約20名が当たり、本会の編集委員会で推敲を重ねました。

第一線で活躍する設備設計者が、実務において、建築と設備のかかわりあう場で直面した問題を掘り起こし、その解決を選択肢で示した本書は、意匠設計者のみならず、初歩の設備設計者にも好個の資料になるものと思います。

本書は、10月から全国の書店店頭に出ていますが、本会でも図書の販売をいたします。本会では特別価格として、定価(5000円)の２割引の4,000円(郵送の場合は送料380円/1冊要)で頒布しますので、お買い求め下さるようお願い申し上げます。

詳細お問い合わせ、および購入申込は、㈳日本建築協会へお願いします。

編著者　社団法人　日本建築協会
（東畑建築事務所／北島章因・弓崎幸治・坂田進・城下善雄・中野格、日建設計／藤岡茂・瀬戸良昭・押田忠明、安井建築設計事務所／日根東治・山根敏和・水谷広治、大阪ガス／中村秀行・佐々木明美、関西電力／中村秀夫・大木俊郎、ほか）
〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100 TEL06-348-0635



発行所　㈳オーム社
〒101 東京都千代田区神田錦町3-1 TEL03-3233-0641
体　裁　B5判、220頁、上製本
定価5,000円

日本建築協会新入会者ご斡旋お願い

本会は大正6年3月創立以来、建築法規の法制化に努めたほか、わが国初の住宅博覧会の開催、四会連合工事請負契約約款の制定など、今日に至るまで、建築界をリードするとともに、一般社会との結びつきを深めてまいりました。また、建築界の総合団体として常に建築関係各部門の連繋と調整に当たり、相互の親睦、共存共栄に意を注ぎ、会誌「建築と社会」の発行や、各種見学会、講習会など実務に直結した諸種の事業活動を行っております。

これらの事業をますます発展させるため、会員の増強運動を展開して会勢の伸展をはかりたく、入会者のご斡旋をお願い申し上げます。事務局は電話06-348-0635です。

建築工事実務講習会京都開催

日　時　●積算・仮設見積
平成6年6月15日(水)
午前10時～午後4時30分
●施工計画
平成6年6月22日(水)
午前10時～午後4時30分

会　場　京都建設会館・4階講堂
〒604 京都市中京区
押小路通柳馬場東入

講　師　●積算・仮設見積
吉田　豊氏
㈱竹中工務店大阪本店
藤井孝晏氏
㈱大林組本店
●施工計画
服部勝興氏
㈱鴻池組建築本部
高橋憲昭氏
㈱松村組大阪本店

定　員　80名

会　費　18,000円(テキスト代、消費税を含む)

※施工計画、積算・仮設見積ともの受講料。

申込方法　㈳日本建築協会京都支部
〒604 京都市中京区
押小路通柳馬場東入
電話：075-211-2857

主　催　㈳日本建築協会京都支部

平成6年度・建築工事実務講習会大阪開催は、9/8と9/21に開催予定。
詳細は後日会告します。

日本建築協会後援

特別展覧会「ブルーノ・タウトーその建築世界に迫る」


ブルーノ・タウト(1880～1938)

ドイツの建築家、ブルーノ・タウト(1880～1938)は、ナチス・ヒトラーがヨーロッパを席巻し始めた1933年、日本に亡命。3年余りの滞在中、仙台や高崎で工芸指導を行うとともに、日本の伝統的建築美や民族的な美意識を掘り起こした『桂離宮』や『日本文化私観』などの著作を残しました。

ドイツでは表現主義、理想を追い求める社会思想家としての建築家といわれ、最近、初期の絵画作品も多数確認されるなど、建築家、画家、思想家、総合芸術家……様々な顔を持つ新しいタウト像への関心が高まっています。

展覧会は、機能主義モダニズムがその根底から新しい視点で見直されようとしている中で評価の高まりつつあるタウトの世界、その思想、全体像を浮き彫りにしようとするものです。

■東京開催

会　期　1994年6月9日(木)
～8月1日(月)
10：00～20：00
6月14日、21日は休館日

会　場　セゾン美術館(東京・池袋)
03-5992-8700

主　催　セゾン美術館、毎日新聞社

■京都開催

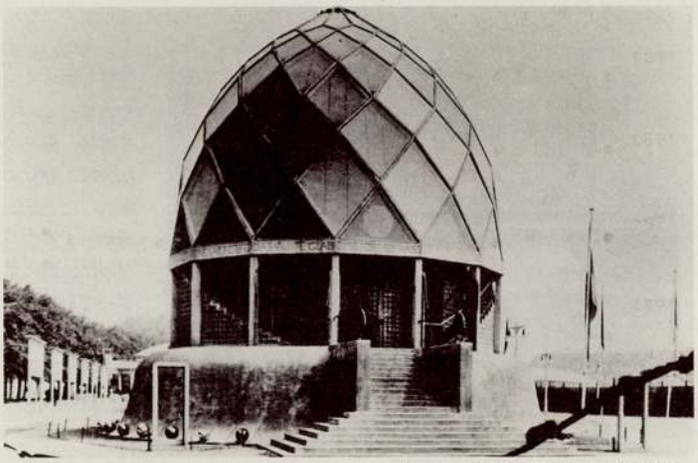
会　期　1994年8月30日(火)
～10月2日(日)　月曜休館
9：30～17：00
金曜日は20：00まで

会　場　京都国立近代美術館・3階企画展示室
京都市左京区岡崎

主　催　京都国立近代美術館、毎日新聞社

入場料　一般1,250円、大高生900円
中小生400円
前売り―1,100円、800円、300円

出　品　日独双方から集めた未公開のオリジナルを中心に、絵画・書・スケッチ200点、建築図面・ドローイング・模型150点、新発見の写真、資料、自邸インテリアの色面再構成を加えた計600点。


グラスハウス(ケルン/ドイツ)　1914年

■京都開催の記念講演会

● 9月10日(土)　14：00～15：30
講　師　安藤忠雄氏(建築家)
演　題　未定
会　場　京都会館会議場
(左京区岡崎最勝寺町13)
入場料　一般1,500円、学生1,000円
(展覧会入場料とセット)

● 9月17日(土)　14：00～15：30
講　師　井上章一氏(国際日本文化研究センター)
演　題　未定
会　場　京都国立近代美術館小ホール
入場料　展覧会入場者は無料

「建築と社会」誌
特集一覧● 1974～1994

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。昭和42年からは体裁をA4変形判に変え、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時々の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-348-0635, FAX 06-348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。なお、「建築と社会」創刊号～昭和30年12月号まで全87巻の復刻版が、1991年10月から順次発行（不二出版）・配本されているので、詳細は日本建築協会事務局へお問い合わせ願いたい。

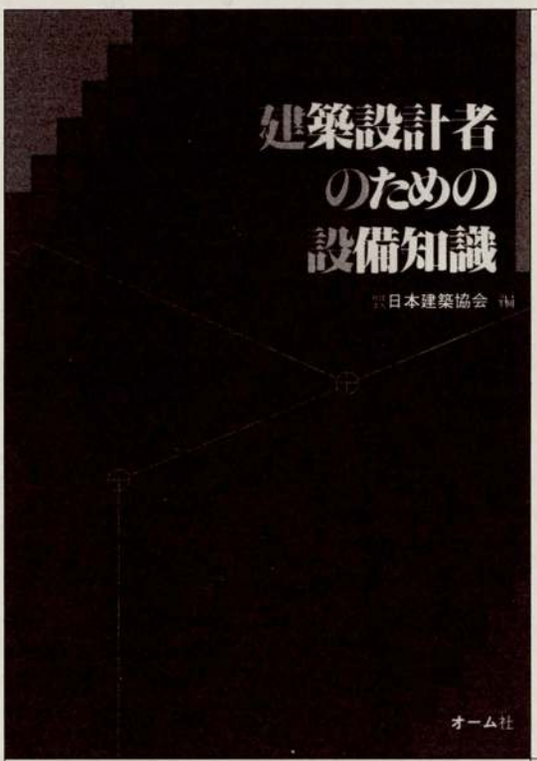
号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1974 Vol. 55	●歴史的環境保全	●明日の建築はどうなるか・	●保養所作品・	●既成市街地の住宅地整備の方策	●北摂ニュータウン計画・	●建築生産と流通機構の変容	●ビルの省エネルギー化	●高層プレハブ住宅の構造設計	●みどり・	●屋根防水工事の失敗例とその対策・	●第21回青年技術者・	●ビル防災に関する12章
1975 Vol. 56	●図書館	●東海の新建築・	●インテリア・	●PC板を使用した工業化住宅	●社会・建築・法・	●都市の景観と施設	●建築とプレストレストコンクリート構造	●生活排水処理施設のあり方	●人間環境としてのターミナル・	●騒音対策と防音材料	●第22回青年技術者・	●集合住宅の設備・
1976 Vol. 57	●証言'76—建築デザインの動向・	●建築基礎構造の問題点・	●医療施設・	●床工法と材料・	●建築防災と法・	●市街地整備・	●工場建築の設備・	●鉄骨構造のジョイント	●集住体のハードとソフト・	●結露防止対策と断熱材料・	●第23回青年技術者・	●設備からみた建築の問題点
1977 Vol. 58	●デザインの動向—部分と全体・	●兵庫県—その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	●コンクリートの品質管理と行政指導の方向	●日影規制と法・	●身障者施設・	●照明設備・	●埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として	●日本住宅公団と建築作品	●ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ・	●建築における省エネルギー化	●第24回青年技術者・
1978 Vol. 59	●デザインの動向—新旧のコントラスト	●水・	●医療施設—病院建築と情報システム	●外壁塗装材料・	●電波障害と建築・	●組合方式による集合住宅計画	●住宅設備	●新しい耐震設計	●CAD—設計とコンピュータ	●一般号・	●第25回青年技術者・	●ビル環境
1979 Vol. 60	●転換期の再開発・	●大阪南港ポートタウン	●商業空間	●コンクリートのひびわれ	●日影規制・	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌・	●建物の終局強度の検討・	●庄内のまちづくり・	●80年代のインテリア・	●第26回青年技術者・	●建設業の労務事情・
1980 Vol. 61	●80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望・	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物・	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集・	●住宅の耐久性・	●建築行政と法規・	●最近の防水工法・	●都市景観とアメニティ・	●屋内体育施設の設備・	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材・	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション集合住宅・	●これからの建築設計と新耐震設計法・
1981 Vol. 62	●職能論・	●中国の論文—北京の都市計画・	●ポートピア'81・	●台所まわりの計画と設備・	●シーリング材の知識・	●災害と法—安全な環境をめざして・	●都市住宅—住まい手からの発想・	●建築物と風—デザイナーのために ●日建設計作品集・	●住宅・都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割・	●間仕切壁の性能評価・	●第28回青年技術者・	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 Vol. 63	●新たな商業空間の展開・	●省エネルギーと開口部・	●医療施設—地域医療と設備計画・	●近畿の地盤と地質・	●都市景観—まちなみ美観への誘い・	●大阪市庁舎（第一期）・	●ホール建築と音・	●大スパン構造・	●昭和設計作品集・	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築・	●風土・空気と人間・
1983 Vol. 64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設・	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール・	●集合住宅と生活音
1984 Vol. 65	●21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル	●ビルのリフレッシュ—内外装補修技術の現状と発展—	●建設産業とロボット開発	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル・	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 Vol. 66	●大阪湾物語・	●東海の現在と近未来	●自由様式への道—建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール—それが生みだす文化—	●建物の表情—最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合—人体と建築にみる— ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 Vol. 67	●これからの住空間—都市型集合住宅にみる	●屋根—そのデザインと素材	●現代デザイン—ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住居と設備	●開発—その創造的仕掛けの鍵をもとめて— ●ツイン21	●CAD—その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 Vol. 68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚の街づくり	●建物と街並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 Vol. 69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統—東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ・	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明	●制振	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ・ ●大阪府営繕	●第35回青年技術者 ●800号記念・	●讀賣テレビ
1989 Vol. 70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術・	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備I	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備II ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 Vol. 71	●商品化住宅のデザイン・	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識—中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化—設計の多様化をめざして—・	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観・	●高級感—建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 Vol. 72	●新しい都市空間づくり—I—	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり—II— ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識—複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木—構造技術の世界— ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 Vol. 73	●夢物語—人がかわる、まちがかわる—	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン—東海支部—	●建築家のための設備知識—集合高層住宅の設備システム—	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り—住宅・都市整備公団関西支社10周年—	●木構造を使ってみませんか—集成材による構造—	●接着—建築分野への限りなき可能性	●中国地方の街並みと建築家の「語り、夢、作品」	●屋台—仮設の魅力に学ぶ ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているのか	●京のかたちと色
1993 Vol. 74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境—限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生—構造技術の役割— ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境—人にやさしい空間創造をめざして
1994 Vol. 75	●コピー文化の新時代 ●広島の街造りとアジア競技大会	●九州のインスタレーションと覚	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈	●建築のエネルギーシステム								

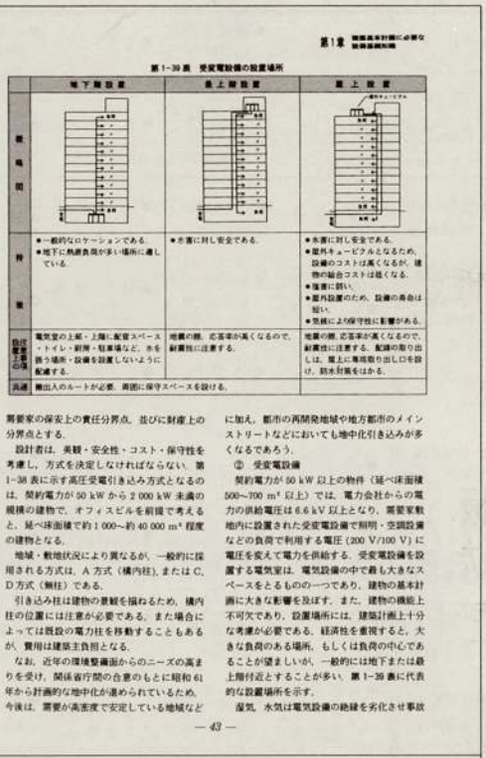
・印は欠号

㈳日本建築協会編／オーム社発行

建築設計者のための設備知識 —— 発売中 ——

B5判　220頁　上製本　定価5000円(本体4854円)　'93・9月30日刊行




第1章

第1-39表　受変電設備の設置場所

	地下階設置	最上階設置	屋上設置
概略図			
特徴	●一般的なロケーションである。 ●地下に熱源負荷が多い場所に適している。	●水害に対し安全である。	●水害に対し安全である。 ●屋外キュービクルとなるため、設備のコストは高くなるが、建物の総合コストは低くなる。 ●塩害に弱い。 ●屋外設置のため、設備の寿命は短い。 ●気候により保守性に影響がある。
設計上の注意点	電気室の上部・上階に配管スペース・トイレ・厨房・駐車場など、水を扱う場所・設備を設置しないように配慮する。	地震の際、応答率が高くなるので、耐震性に注意する。	地震の際、応答率が高くなるので、耐震性に注意する。配線の取り出しは、屋上に専用取り出し口を設け、防水対策をはかる。
共通	搬出入のルートが必要。周囲に保守スペースを設ける。		

需要家の保安上の責任分界点、並びに財産上の分界点とする。

設計者は、美観・安全性・コスト・保守性を考慮し、方式を決定しなければならない。第1-38表に示す高圧受電引き込み方式となるのは、契約電力が50 kWから2 000 kW未満の規模の建物で、オフィスビルを前提で考えると、延べ床面積で約1 000～約40 000 m²程度の建物となる。

地域・敷地状況により異なるが、一般的に採用される方式は、A方式（構内柱）、またはC、D方式（無柱）である。

引き込み柱は建物の景観を損ねるため、構内柱の位置には注意が必要である。また場合によっては既設の電力柱を移動することもあるが、費用は建築主負担となる。

なお、近年の環境整備面からのニーズの高まりを受け、関係省庁間の合意のもとに昭和61年から計画的な地中化が進められているため、今後は、需要が高密度で安定している地域などに加え、都市の再開発地域や地方都市のメインストリートなどにおいても地中化引き込みが多くなるであろう。

② 受変電設備

契約電力が50 kW以上の物件（延べ床面積500～700 m²以上）では、電力会社からの電力の供給電圧は6.6 kV以上となり、需要家敷地内に設置された受変電設備で照明・空調設備などの負荷で利用する電圧（200 V/100 V）に電圧を変えて電力を供給する。受変電設備を設置する電気室は、電気設備の中で最も大きなスペースをとるもののひとつであり、建物の基本計画に大きな影響を及ぼす。また、建物の機能上不可欠であり、設置場所には、建築計画上十分な考慮が必要である。経済性を重視すると、大きな負荷のある場所、もしくは負荷の中心であることが望ましいが、一般的には地下または最上階付近とすることが多い。第1-39表に代表的な設置場所を示す。

湿気、水気は電気設備の絶縁を劣化させ事故

— 43 —


第6章

第6-3表　空調システム例（3）

方式	概略図	特徴	エネルギー	熱源機械室	空調機械室	PS	DS	熱源	換気設備	屋上設置機器	屋内可	評価	保守	騒音	温度制御	スペース	運転	コスト	プラントの制約	外気冷房
E 空調機＋ファンコイル方式（中央熱源）		インテリア負荷は空調機、ペリメーター負荷はファンコイルで負担する。空調機の送風量はペリメーター分だけ少なくすることができるので、納まりはよい。温度制御は、ゾーニングができているためよい。南面の冬季の日射負荷対応には、ファンコイルの配管を冷水・温水の4管とする必要がある。	電気またはガス	不要	1フロア 1 000×800×2 ヶ所	ファンコイル200×200 機械室兼用	不要		換気扇	屋上設置機器	方式Cと同様		○	○	○	○	○	○	◎	可
F 空調機＋パッケージ方式（熱源熱源は中央熱源併用）		インテリア負荷は空調機、ペリメーター負荷はウォールスルー型パッケージで負担する。ダクトサイズは、E方式同様小さい。ゾーニングができているため、温度制御性はよい。南面の冬季日射負荷には、個別対応が可能。時間外には中央熱源を運転しなくても、パッケージで冷暖房が可能（室面より6 m程度）。	電気＋電気またはガス	不要	1フロア 1 000×800×2 ヶ所	機械室兼用	不要		換気扇	屋上設置機器	方式Cと同様		○	○	◎	○	○	○	○	可

— 157 —

■目次

序　論　建築設計のための設備

第1章　建築基本計画に必要な設備基礎知識
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／ごみ処理設備

第2章　事務所ビルの設備基礎知識
給排水衛生設備（＋ごみ処理）／空気調和設備／電気設備／昇降機設備

第3章　商業ビルの設備基礎知識
給排水衛生設備（＋ごみ処理）／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／貸方基準

第4章　集合住宅の設備基礎知識
給排水衛生設備（＋ごみ処理）／電気設備／昇降機設備／電気エネルギー設備／ガスエネルギー設備

第5章　意匠設計者による設備の打ち合わせ
現地調査／官庁打ち合わせ事項／建築主打ち合わせ事項／法規チェックリスト

第6章　事務所ビルの設計例
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／モデルビル設備概要

第7章　商業ビルの設計例
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／ごみ処理設備／モデルビル設備概要

第8章　建築と設備の接点
外壁，屋根／ドアガラリー／機械室／屋上，屋外／天井／DS，PS／EPS／フロアダクト／設備更新／騒音・振動の防止／住宅用メーターボックス／各種機器の納まり／配管スペース

本著書は、㈳日本建築協会機関誌「建築と社会」に3回にわたり特集した内容をベースに、環境問題にゆれる現在の社会状況を織り込み、最新の技術情報を盛り込むべく新たに書き起こしたもので、執筆には、東畑建築事務所、日建設計、安井建築設計事務所、大阪ガス、関西電力の設備設計者が当たり、編集委員会で推敲を重ねました。

第一線で活躍する設備設計者が、実務において、建築と設備のかかわりあう場で直面した問題を掘り起こしその解決を選択肢で示した本書は、意匠設計者のみならず、初歩の設備設計者にも好個の資料になるものと思います。

本書のお求めは、全国の書店で!!

㈳日本建築協会（〒530大阪市北区梅田1-1-3-2100TEL06-348-0635、FAX06-348-0634）では、割引価格（＋送料実費）で販売しますので、本会までご注文下さい。

建築と社会

1994 5 1917年創刊 第75集／通巻866号

ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

今月の表紙
東京都庁舎
写真 東出清彦
表紙デザイン ㈱アクロス

■特集予告
6月号／いま、医療施設は
7月号／住空間における居どころへの視点
8月号／まちなかの看板

会長 市川 宏
副会長 岡本行善・金 寿 潔
錢高善雄・秦袋公明
三品哲夫

編集委員会（平成6年度）

■編集理事
青柳 司
◎荒井 清
井上 豊
小島 雄
須賀 好富
竹中 錬一
深江 実
松村 廣三
清神宏至朗
若山 繁

■編集顧問
東 孝光

■編集委員
★計画系分科会
☆計画系
伊縫 恵幸
梅村 宏尚
小浦 久子
鈴木 克彦
田中 直人
松川 敏正
横関 真紀
※吉村 英祐
☆建築計画系
荒井 博
※石山 道男
磯村千恵子
上杉 秀隆
江副 敏史
菅野 忠司
笹村 欽也
佐藤不二男
塚本 史郎
刃金 国男
山本 匡
☆インテリア・住宅系
石川 佳子
大橋眞由美
加藤 力
角方 利幸
北浦かほる
工藤 昌之
小梶 吉隆
小島 保人
高橋 文吾
※中村 孝之
畑 康之
福田 由利
増田 邦子
★構造分科会
和泉 一義
岡本 達雄
亀井 功
黒木 安男
竹野 富夫
多田 元英
築谷 朋也
※二宮 利治
西 邦弘
西村 泰志
糞輪 幸男

★設備分科会
岩本登志男
植田加久夫
遠藤 進
梶井 宏修
河津 隆之
伊達 正雄
田ノ畑好幸
※村上幸三郎
★施工材料分科会
有光 利治
植田 実
※小椎八重猛
志水 史典
野口 和宏
吉田 茂二
★法令分科会
乾 康雄
入江田吉仁
樫田 攻
中西 孝子
廣田 美清
■作品作風小委員会
小笠原絵理
小野 正人
尾崎 久純
岡本 隆
川上比奈子
倉澗奈千子
杉原 繁
田中 均一
◎富田 昌義
藤城 義丈
前川 治彦
前田 幸宏
増田 敬彦
増田 俊哉
松田 善弘
宮地雄一郎
■会員企画小委員会
伊藤 郁郎
○稲木 裕子
茨木 保
槽谷 浩史
毛谷村英治
小坂橋鉄雄
佐伯由紀子
佐野 洋
高田 光雄
高橋 麗子
塚口 明洋
増渕 昌利
松石 千秋
山嵜 章子
■広告企画小委員会
池渕 俊男
上井 善一
○勝 一弘
河原 正雄
衣川 徳好
菱田信八郎
藤田 孝吉
山下 修司

◎委員長 ○副委員長 ※幹事

印刷 平成6年5月20日
発行 平成6年5月25日
発行人 社団法人日本建築協会
発行所 社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電 06－348－0635
振替口座 大阪1-39975
印刷所 青葉印刷株式会社
電 06－351－5428㈹
サン総合印刷株式会社
電 06－454－1481㈹
日本電植株式会社
電 06－352－7502
定価 1200円
(本体価格1165円・送料共 消費税35円)

CONTENTS

特集● 明日に向かって ── 会員作品

NISHIO東京支店ビル ● 小林 恒 ── 24
日本精線クリスタルホール ● 小南一郎 ── 25
YMC技術開発センター ● 長瀬博一 ── 26
玖珂町・東部地区コミュニティセンター ● 村重保則 ── 27
東京都多摩動物公園ウオッチングセンター ● 川鉄エンジニアリング ── 28
大丸神戸店南館 ● 双星設計 ── 29
土管の家 ● 芝吹千昭 ── 30
I邸 ● 田中啓文 ── 31
靱公園集会所 ● 塚口明洋 ── 32
ランプラス嵯峨 ● 浅野 裕 ── 33
広島県立びんご運動公園健康スポーツセンター ● 小西吉太郎・小西郁吉 ── 34
宗教法人トゥルース教新本宮 ● 黒明節夫・西村善郎 ── 35
沖美町ふれあいセンター ● 山田 保・上定正張 ── 36
Y邸 ● 岩本貞幸 ── 37
曹洞宗円蔵院本堂 ● 森島照雄 ── 38
バンブー離宮 ● 浅野昭夫 ── 39

会告
会員の受賞
通常総会開催通知
「こんな看板、見つけました」―「建築と社会」であなたの投稿をお待ちしています―
「建築設計者のための設備知識」刊行、割引価格で頒布
建築工事実務講習会京都開催
特別展覧会「ブルーノ・タウト―その建築世界に迫る」 1

作品作風
高槻市総合センター
ジャスコシティ高槻
千里北センター商業施設開発事業核店舗棟 6

ART PROCESS
簔内 弘(彫刻家)／奥田博士(彫刻家) 12

法令コーナー
立体道路制度とその活用 ● 簔内 弘 15

大先輩に聞く
向井正也 ● 佐野 洋・伊藤郁郎 16

GBRCニュース
平成6年度の事業計画 19

新建材紹介コーナー
セーフストライド ● 松本 章 21

建築の眼
組合せの妙 ● 河邊 聡
新最小限住宅 ● 笹川敏昌
シアトリカル パーフォーマンス(演劇) ● 山下 勝
図は口以上に物を言う ● 藤崎安弘 22

設備の頁
リサイクルシステム 生ゴミ処理器 ● 辻田紀子 40

施工材料の頁
コンクリート用曲面型枠 ● 藤原厚生 41

出版委員会REPORT
―構造計画と躯体コストについて―、―いま積算に求められているもの― ● 前田邦江 42

information
ル・コルビジュエ油彩展
病院建築基礎講座
第3回きょうと景観賞決まる
CG OSAKA '94
横浜市が国際建築設計競技
「1994建築仕上フォーラム」のシンポジウム開催
国際デザイン・コンペティション、テーマは「触」
「デザイン・名古屋'94」デザイン・コンペ作品募集 43

月報
平成5年3月分 45



正面見上げ

作品
作風

設計■
安井建築設計事務所

監理■
高槻市・安井建築設計事務所

施工■
大林・錢高・大昭共同企業体

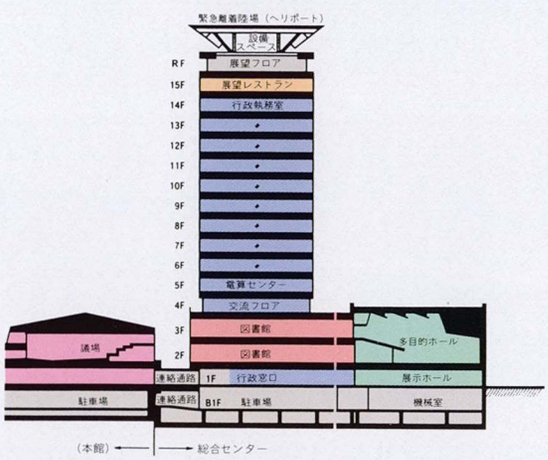
高槻市総合センター

高槻市制施行50周年記念事業の一つとして位置付けられたこの総合センターは、既存の市庁舎に代わって21世紀にむけて高槻市の新しいシンボルとしての役割を担うと同時に、教育・文化・行政の３機能を合わせ持つ複合建築として計画されたものである。

現庁舎の北側に隣接して建つこの建物は、既存庁舎と一体利用されて活性化を図り、新旧の建物が一つの都市景観として、まちづくりに寄与するものでなければならないと考え、内部動線の一体的計画、計画モデュールの整合性、全体としての建築ボリュームのバランス、外観の新旧の対比と調和について特に配慮して計画した。

高層部は東西にコアを設け、避難上も有効で、行政オフィスとして適切な奥行き(21M)を持つ効率の良い無柱空間を実現している。外装は高性能熱線反射ガラスによるカーテンウォールとし、現庁舎に共通する横ストライプの表現を加え、腰に自然換気用スリットを設けて時間外の空調停止時に備えるとともに外観にアクセントを加えている。最上部のヘリポート(緊急離発着場)は、東西のコアをつなぐ構造上のメガトラスを利用し、躍動感のある個性的な形状とし、明快でシンボリックな印象を持つランドマークとなることを目指している。

(谷　誉／安井建築設計事務所)



断面図　1：1500

所在地 ——— 高槻市桃園町２番１号
敷地面積 ——— 19,220㎡
建築面積 ——— 3,287.95㎡
延床面積 ——— 22,507.11㎡
構造規模 ——— SRC・S、B1F、15F、P2
工　　期 ——— 平成３年10月～平成５年12月
最寄駅 ——— JR京都線高槻駅
撮　　影 ——— 藤　義則



全景(北東面)


エントランスホール


多目的ホール

全景鳥瞰※



作品
作風

設計施工 ■
大林組

ジャスコシティ高槻

大阪・京都間の主要幹線である国道171号線の高槻近郊は万博時に一時賑わいのあったものの、食品工場の点在する殺伐とした風景が連続する場所である。この地に緑と賑わいを取り戻し、地域の活性化と環境の向上に寄与することが施設建設のテーマの一つであった。

約46,500㎡の敷地に、建物を道路面より後退させることで、約41,000㎡の商業施設と1,800台の駐車場を確保しながら、国道沿、駐車場内の緑化等に配慮し、楠の並木道等40,000本の植栽で緑豊かな環境づくりをめざした。

外観はコンクリート打放しのストラクチャルなデザインを基調にグレー系の濃淡によるパターン構成でシンプルにまとめ、周囲の緑との調和を意識し自然とともに成長する姿をイメージしている。

施設内部は、核店であるジャスコと77の専門店を主体に飲食店舗・ボーリング場で構成しており、これら商空間の回遊の要として4層吹抜けのスタジアムコートを設け階段状の客席に体感音響パネルを組込み、マルチビジョンでの多彩な映像とともに臨場感あふれる演出で話題性と更なる集客効果を狙った。

(神道　浩・大橋眞由美／大林組本店設計部)



配置・1階平面図　1：4000

所 在 地 ——— 高槻市萩之庄3丁目47-2
敷地面積 ——— 46,552.80 ㎡
建築面積 ——— 20,017.726㎡
延床面積 ——— 61,246.909㎡
構造規模 ——— 商業棟：外周部RC、中央部S＋SRC、3F、PI
　　立駐棟：S、5F、PI
工　　期 ——— 平成5年4月～平成6年3月
最 寄 駅 ——— 阪急京都線高槻市駅
撮　　影 ——— 川元　斉、神　　史(※)



南東面外観


壁面パターン



スタジアムコート



外観東面



外観東南面（夜景）

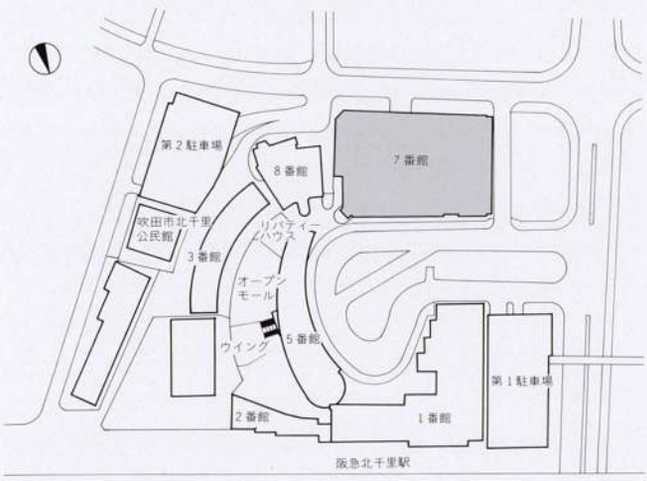
作品
作風

設計監理 ■
アール・アイ・エー大阪支社
施工 ■
鹿島・熊谷・淺沼共同企業体

千里北センター商業施設開発事業 核店舗棟

阪急北千里駅前地区は千里ニュータウンの北地区センターとして、これまで永年に亘りニュータウン住民の消費生活を支えてきました。しかし、近年消費者の価値観やライフスタイルの多様化など、商業環境の変化や既存店舗の老朽化等が相まって、地域商業者や住民の方々から再開発の要望が出ていました。この様な状況の中で、1982年より地区の活性化計画が着手され種々検討を重ねた結果、地元商業者、大阪府千里センター、㈱ニチイを主とした第3セクターで計画管理運営を進めることになり、千里北センター株式会社を設立、魅力ある商業施設のマスタープランが作成され、地区内に新しい商業施設や既存店舗のリニュアル化、駐車場の増設とあいまって、核となるこの施設の誕生となりました。地区の配置計画の中では、駅正面に配置することにより新旧商業施設、駐車場とこの施設が有機的に結ばれ、回遊性のある商業ゾーンとなっています。又ファサードは地区のシンボルとなるよう計画し、特に駅正面部分はシンメトリーに構成し、周辺地区ともマッチするようなカラーコンディショニングなど新しい風景をつくりだすよう心がけたつもりです。施設内構成としては店舗の他、カルチャーセンター、多目的ホール、スイミング・スクール、アスレチック等の文化施設や体育施設を設け、多目的ショッピング施設として地域コミュニティの創造の場としての役割をはたすことになるでしょう。

（渡辺佳彦／アール・アイ・エー大阪支社）



配置図

所 在 地 ——— 大阪府吹田市古江台4-119-6他
敷地面積 ——— 23,598.21㎡
建築面積 ——— 3,494.379㎡
延床面積 ——— 27,829.573㎡
構造規模 ——— B1F、8F、P1、B1F～2FSRC、3F～RFS
工　　期 ——— 平成4年8月～平成6年4月
最 寄 駅 ——— 阪急千里線・北千里駅
撮　　影 ——— 習田四郎



東面・南面ディテール



2階店舗



1階店舗

籔内　弘
YABUUCHI HIROSHI

1943　京都府生まれ
63　行動展、京展以後毎年出品
66　フランス留学毎日美術コンクール
　　毎日選抜美術展
70　横浜野外フェスティバル展
74　第11回日本国際美術展（招待出品）
78　アートナウ'78展（兵庫県立美術館）
　　第12回日本国際美術展　13回14回展出品
79　第14回現代日本美術展　15回16回展出品
84　現代彫刻展（伊丹市民ギャラリー）
86　'86選抜美術展（京都市美術館）88.99年出品
89　日本現代彫刻展（台北市立美術館）
91　芸術祭典「京」「京流兵士の物語」舞台美術担当する
93　都市景観賞受賞（愛知県半田市）
　　現在　行動美術協会会員



「ああした天気になーれ」　鹿児島県大隅・御影石
H100×240×140　4個



「風の序曲」　中国産・六方石
H220×240×100　H200×200×90

私は1980年以来、現代彫刻として石で下駄（石駄）を彫り続けています。

「ああした天気になーれ」は、一昨年愛知県半田市より乙川駅前児童遊園に設置の依頼を受け、現地を見てタイトルが浮かんで来ました。子供達に夢のある造形をと考え、日本一の大きな下駄を4個石で彫る事にしました。大人には懐かしく、見慣れない子供には抽象作品に見えるかも知れません。子供達が大人になった時、下駄のある公園で遊んだ事が、パソコンやゲームで遊んだ事よりもきっと懐かしく思い出すのではないでしょうか。

「風の序曲」は近年好んで使っている中国産の六方石で彫りました。石肌の土っぽさと中に秘めた黒く硬い部分の対比が、石の出来る迄のロマンを感じるからです。ゴロンとした一個物の石ですので、余り人工的に彫り刻んで形をつくるよりも二つに切断し、写真手前は立った形をブロンズ鋳造し、奥の作品は、切断した形をそのまま立て両方共楕円を開け、風の通り道とし、下部の石には楕円方向に向かって表面をうすく彫ってあります。石は原石のままの方が力強く雄大な形かも知れませんが、石を見ていると語りたく姿が見えて彫りたくなるのです。

籔内　弘

奥田 博士
OKUDA HIROMU

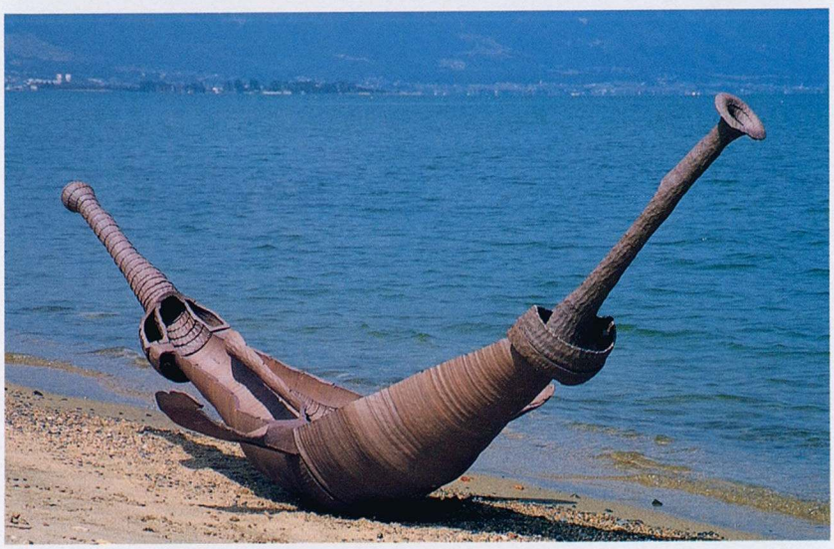
1949　滋賀県に生まれる
(個展)
90　ギャラリーすずき(京都)〝音空〟
90　カリフォルニア州立大学、フルトン、メインアートギャラリー(アメリカ)〝音空〟2月3日～3月17日
89　A.C.C［Asian Cultural Council］より、基金を受け、アーチブレイファンデーション(アメリカ、モンタナ州、ヘレナ)にて制作。
88　ギャラリー玄海(東京)〝音空〟
87　佐賀町エキジビットスペースBis(東京)〝音空〟
渋谷西武アートギャラリー(東京)〝音空〟
ギャラリーフジ(大阪)〝音空〟
86　大阪府立現代美術センター(大阪)〝音空〟
86･85･84　ギャラリーマロニエ(京都)〝音空〟
85　滋賀県立近代美術館ギャラリー(滋賀)〝音空〟
83･82･81　ギャラリー虹(京都)〝虚構〟
80･79　ギャラリー陶園(滋賀)〝虚構〟
87　ギャラリー16(京都)〝座の解体〟
77･76･75･74･73　ギャラリー射手座(京都)〝座の解体〟



写真：佐々木悦弘

私の中に、一つの風景がある。子供の頃に遊んだ信楽の山河の風景。夕方遅くまで駆け回った山。魚取りに夢中になった清流。雷で大きな洞の開いた木の中で遊んだ事。大きな岩場での崖登りや、陶製の火鉢のかけらをお尻に乗せて、崖の斜面を飽きもせず、すべり続けた日々。毎日毎日、自然を相手に、体中で遊び呆けていた子供のころ。毎日が驚きと〝不思議〟に満ちていた、ゆったりとした流れの中の世界。今も私は、生まれ育った信楽の地に住み続け、目まぐるしく変わっていく風景の中で、「あの頃」をたぐり寄せようとしている。「あの頃」確かに見えていた世界。「あの頃」確かに聴こえていた世界。川のせせらぎの中に、大岩の中に、木の洞の中に、林の中に、見え聴こえ、私がその中の一部である事が許されていた、幸せな少年時代。私は目を見開き、耳を澄ます。
私の目はかすみ、耳は雑音しか聴こえない。かすかに、かすかに見えた様な、聴こえた様な瞬間がある。私は記憶の糸をたぐり寄せ「あの頃」へ到る一本の細い道を逆にたどり、迷子になってしまう。「あの頃」の道は閉ざされ、そこへ、たどりつく道はもうないのだろうか。私の道さがしは、私の創作の中で続けられ、私の幸せな驚きに満ちた「原風景」は、私の作品の中で再現される。

奥田博士



(推薦ギャラリーすずき)

彫刻プランニングオフィス〝はねうさぎ〟はモニュメントや造形作品による、芸術との共存空間をプランニングすることにより、環境と融合した美の空間、人間的な表情豊かな空間づくりが出来ればと願っております。
コーディネーター〝はねうさぎ〟代表 巽育子(お問合せ 075-761-3759)

企画協賛：菊川工業・東芝昇降機事業部



泉佐野市公園墓地モニュメント「風」
作 者：永原 浄
材 質：ステンレス
仕 上：鏡面及びブラスト(一部フッソ塗装)
高 サ：7.45m

写真撮影:村井 修

METAL ARCHITECT
KIKUKAWA

菊川工業株式会社 本社 〒130 東京都墨田区菊川2-18-10 TEL 03-3634-3231
大阪 〒530 大阪市北区中津3-7-3ビルコ5F TEL 06-374-1961

法令コーナー

292 立体道路制度とその活用

はじめに　立体道路制度は、もともと道路を整備する側の必要性から、平成元年度の一連の法律改正（都市計画法、建築基準法、道路法、都市再開発法）により創設されたものである。よって、制度そのものが道路整備を主眼として構成されている。

一方、逆に建物側の必要性（道路を直接建物に取り込んだり、道路空間以外の空間を建物として高度利用したいなど）から実施に至っているものも出てきており、その実施に当たり法律をどのように運用していくか、実務的な検討を今後ともつづけていく必要がある。

本稿では、立体道路制度を法制度面から概括し、実施に当たり問題となる立体道路に関する土地と建物についての権原の処理について、実例を紹介しながらふれる。本文中、キーワードおよび実務上の取り扱い上重要なものには、下線をつけた。

立体道路制度概要

元来、道路空間と建物空間は、互いに侵すべからざる空間として、極めて例外的場合を除いて、共存することはなかった。それらは法的には建築基準法並びに道路法により守られてきたといえる。

立体道路制度は、この建築基準法、道路法に例外規定を設けることにより公に認知したものである。具体的には、道路空間と建物空間の一体的活用を行う場合、道路と建物の一体的整備を行うべき区域をあらかじめ都市計画に位置づけることで、建物側は特定行政庁の認定（許可でないことに注意）により道路内に建築が出来るようにするとともに、道路側は道路の区域を立体的に定めることで道路管理権の行使範囲を限り、範囲外は道路法の規定が及ばないようにしたものである。

注：そういった意味で、高度地区、高度利用地区内において、特定行政庁の許可を得て行う道路と建物の一体整備は、広い意味で立体道路制度を活用したものといえるが、本文では、上記のように狭義に解釈する。

1）都市計画法上の位置づけ

立体道路は、基本的に例外的処置であることから、市街地のどこででも実施できるものでもないし、実施すべきでもない。

道路側の要件としては、都市計画施設としての道路であり自動車専用道路および沿道への出入りができない構造の道路（特定高架道路等）と限定されている。また、良好な市街地の環境の維持増進を図るための適切な制度と誘導という観点から、都市計画で地区計画または再開発地区計画を定め、そのうちの地区整備計画において、重複利用区域（道路の区域のうち、建築物等の敷地と併せて利用すべき区域）、および建築物等の建築限界（立体道路の整備上必要な建築または建設の限界）を定めることで都市計画上の位置づけを行う（都計法12条の4）。当然、位置づけされた区域内で行う都市計画に適合した建築行為は都市計画制限の適用除外となる（都計法53条）。

2）建築基準法上の取り扱い

上記の都市計画に適合していると特定行政庁が認めた（認定した）場合（特定行政庁が、建築審査会の同意を得て許可する場合にくらべ、建築物の計画段階で道路内建築が予定されるため、計画の実現性が高い）には、道路内建築制限が解除され、建築が可能となる（建基法44条）。

なお、道路と建物が一体的に利用されるので、上記の特定高架道路等は、接道対象道路から除外され、道路上の建物は、別途接道する必要がある（建基法43条）。

3）道路法上の取り扱い

通常、道路は天上天下道路であり、空間すべてについて道路法による道路管理権がおよぶものであった。よって、その空間内に建築物を設置する場合は、道路管理者による道路占用許可を得る必要があった。

立体道路制度では、道路の新設または改築を行う場合においてのみ（既設の道路は不可）道路の区域を空間または地下について上下の範囲を定め（立体的区域）道路管理権を制限し、建物の建築を可能としたものである（道路法47条の５）。

また、道路と建物が分離構造の場合は特に問題とならないが、道路を支持する物として道路と一体構造となっている建物（道路一体建物）の場合は、構造物としての道路を保全するために道路管理者は当該建物所有者との間で建物の建築・管理の内容に関して契約（協定）を締結する必要がある（道路法47条の６）。

なお、本契約に第三者対抗要件を持たせるために、協定の公示等の手続きがなされる（道路法47条の７）。

立体道路に係る権原の整理

上記の法律の枠組みの中で、立体道路を実施する場合、道路側と建物側のそれぞれ土地の一部を利用する権原と建物を利用する権原としてどういう権原を設定するべきかについて、立体道路制度が整備される前からの事例を示しながら説明する。

1）立体道路制度以前の事例

立体道路制度が整備される以前の道路と建物の一体的整備の大阪市内における事例としては、建物側として、船場センタービル、朝日新聞社ビル等があり、いずれの場合も道路側は阪神高速道路である。土地に対する道路側の権原としては、前者は土地所有権、後者は無償使用賃借権としている。また建物側の権原は、前者が道路法上の占用許可、後者は土地所有権としている。前者は道路空間に建物が並存する形であり、後者は建物空間に道路が並存した場合の権利関係を当時の法制度内で整理されたものである。建物に対する道路側の権利は、いずれの場合も建物側との契約行為により権原を得ており、建物側の権原としては、当然建物所有権としている。

どちらの事例においても建物側、道路側の取るべき権原として、一部に不完全なものを含んでいる（第三者に対する対抗力の欠如）。

2）立体道路制度の権原

上記の問題を克服するため、立体道路制度においては道路側と建物側の取得すべき権原として、**表１**とすることが想定されている。

表１　土地と建物に対する権原

	道路と建物が分離構造の場合		道路一体建物の場合	
	道路側	建物側	道路側	建物側
土地に対する権原	区分地上権	所有権	共有（注１）	共有
建物に対する権原	なし	所有権	共有または契約による使用権（注２）	所有権

注1）区分地上権は、この場合登記できないので不可
注2）道路法第47条の６に定める道路一体建物に関する協定（公法上の契約となり、第三者に対抗し得る）

3）実施事例における権原の設定

理論的には、上記のように取得すべき権原について整理ができるが、事業内容によっては組み合わせて権利設定を実施することもあり、その活用事例として、大阪市の湊町地区開発での立体道路制度（道路側；阪神高速道路、建物側；複合交通センター）による権原の設定内容を**図１**に示す。

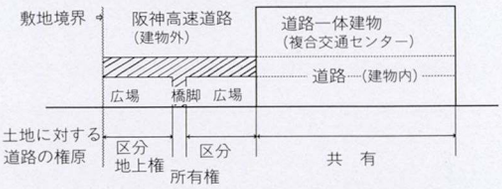


図１　道路側の土地に対する権原の設定（湊町地区）

全体について道路側の土地に対する権原として共有持ち分を設定することも可能であったが、道路下を広場等に利用することもあり、一部区分地上権とするとともに、橋脚部分については所有権を設定している。

おわりに　立体道路制度を活用している事例としては、関東では埼玉県和光市の西大和団地、および関西では上記の湊町地区、りんくうタウンなどが挙げられるが、まだまだ事例は少ない。冒頭にも述べたが、今後は道路整備に主眼を置いた活用だけでなく、重層的な空間利用といった面からも、本制度の柔軟な活用を検討していくことが必要なのではないかと考えている。

藪内　弘　大阪市計画局計画部開発計画課主査

大先輩に聞く

向井正也



むかい　まさや
1918　大阪府交野市生まれ
1945　京都大学工学部建築学科卒業
1950　京都市立美術大学助教授
1963　工学博士(京都大学)
1964　神戸大学工学部教授
1982　神戸大学停年退官
1982　神戸大学名誉教授
1992　勲三等旭日中綬賞

出生前に開かれていた建築への道

大正７年９月15日、関西における図案(デザイン)教育の始祖武田五一の直系の弟子として長く京都高等工芸学校において図案学の研究と教育に携わった父寛三郎の長男として、現住の大阪府交野市に生まれました。父は、尊敬する師武田五一にあやかって、私に彼と同じ字画総数(18字画)となるように名付け、自分の果たしえなかった建築家の夢を長男に託したかったようです。

しかし、もともと私は建築に対してそれほど興味があったわけではなかったのですが、父の強い希望で、京都一中、三高、京大と、エリート・コースを無理やり歩まされることになりました。私が一中に入った頃、父は文部省から欧米に留学を命ぜられ、二年近くベルリン工科大学で、ハンス・ペルツィヒの指導を受けた後、大いに建築づいて帰朝して参りました。私が中学三年生の時です。理科系統が嫌いで、好きな絵ばかり描いていて受験勉強に身が入らなかった私ですが、三高しか受験させてもらえず、重なる失敗ののち、ようやく合格を果たし、そこで富家宏泰君と出会うことになります。

既に中学時代から住宅の設計図を描いていたという彼とは違い、当時の私は建築デザインへの関心はほとんどなく、「何処か絵画が描けるところがあれば良いのだが」ということから自然に建築学科を志望したような次第です。

当時の京都大学建築学科は、坂静雄、森田慶一、村田治郎の諸先生をはじめ、講師として安井武雄や東畑謙三などというそうそうたる先生方がいらっしゃいました。富家宏泰君の音頭で、同級の石田正、真鍋恒憲、石原正雄、浜田重朗らの諸君と「真素木(マシロキ)会」を結成。その共同制作として、近江八幡を舞台にした大学都市の計画を行い、学内で展示会を開いたのを思い出します。また、家庭内でも、デザインについて父とよく論じ合ったものです。その頃の議論の中から、後のモダニズム研究の発想の数々が生まれていったと思います。

戦争・終戦、そして大学へ

京都大学在学中の、昭和19年３月に戦争にかり出されました。実のところ軍隊に行くのが何ともいやで、森田先生に大学に残れるようお願いしていただいたりしたものですが、だめで、大阪師団司令部勤務で工務課に軍曹として配属されました。その後、B29の大阪爆撃で左腕を負傷、入院していましたが、敗戦

で帰還してみると、富家君と私以外の友人達は既に卒業してしまっており、二人だけが取り残された恰好になってしまいました。大学は、卒業設計も卒業論文もなしで二人を卒業させてくれましたが、当時、富家君も私も、何もせずに大学を卒業したのがいやでたまりませんでした。卒業後は腕の傷のため設計の仕事は無理だと思い、森田慶一先生のご厚意によりそのまま先生の研究室の一角に机を置かせていただいて面倒をみていただくような形でいました。

生来グータラで、およそ型にはまったことをするのが嫌いな、いわゆる「ずぼら人間」なので、本来教師は自分には不向きだと思いつつも、特に自分が強く望んだという訳でもなく、自然の流れで研究生活への道を歩んでいったように思います。そこで建築論について研究をはじめるわけですが、森田先生は直接研究のテーマを与えて強力に指導される風な方ではないため、特に印象に残る記憶はありませんが、その後しばらくして教室に帰って来られた西山夘三先生には少なからず影響をうけました。当時、皆でわいわいと何かやろうという雰囲気もあり、再出版されることとなった建築教室発行の雑誌「建築学研究」の編集を、石原正雄、扇田信と三人で西山先生のお手伝いをしたことは楽しい思い出となっています。その頃から、京大増田研究室のような深遠な学術的な研究とは違った、現代建築やデザイン、都市や生活環境についての同時代史的な研究と不可分に結びつく意匠論の研究に興味を持つようになっていきました。

その後、1950年創設の京都市立美術大学に移りますが、主任教授の上野伊三郎をはじめとして富本憲吉、近藤悠三、須田国太郎、黒田重太郎、小野竹喬など、すぐれた芸術家や工芸作家たちと出会い、建築をも含めた造形的センスを磨く機会に恵まれました。せまくプロパーな意味での建築との出会いはあまりなかったと思いますが、自由な雰囲気の中で延び延びと研究を行うことができたこの時代は、後の自分の研究環境を醸成する上でも貴重な時期だったように思います。ここでは、自発的に「建築工芸概論」という講義を持ちましたが、後に安藤忠雄君から、当時独学の彼が、この講義をヤミで受講していた旨を打ち明けられたのは驚きでした。

京大ぎらいの上野さんから疎外され、ひまが出来たことから「近代主義（モダニズム）の建築論」をまとめ、その直後に神戸大学に移りますが、これからモダン・デザインの研究における第2のテーマとしての「マニエリスムの研究」にとりくむことになります。

神戸大では建築史の講座を担当させられましたが、当時たまたま大学院入試にあぶれた結果、私の研究室の助手となったのが毛綱毅曠君で、主義主張の違いはあれ、以来長い付き合いが続いています。

設計活動は殆ど行わず、研究活動が中心でしたが、神戸大学時代のはじめ、伴潔先生、嶋田勝次さんらと神戸市立中央体育館の設計に携わり、これが私の数少ない建築作品のひとつとなりました。

研究テーマについて

私の研究は大きく別けて3つの段階に分けることができます。1950年代～60年代始めにかけての第Ⅰ期(京大→京美大時代)での「近代主義（モダニズム）建築の研究」。1960年代～70年代にかけての第Ⅱ期(神戸大時代)での「マニエリスムの研究」。そして1982年の退官後、今日までの自宅での研究や建築ウォッチングが第Ⅲ期というわけで、もはや建築学会には論文を出さなくなりましたが、意匠学会へはときどき出して参りました。ちなみにこの意匠学会というのは、前身を関西意匠学会といい、東京デザイン学会会長だった勝見勝氏が関西に支部をつくろうということで、当時その会員だった私たちを介して、京大文学部の井島勉先生に働き掛けたところ、話が変って、それなら関西独自のものを別につくろうではないかということから1960年に京都で創設されたもので、この意外な結果となった橋渡し役には意義があったと自負しております。

建築家・建築界にたいして

わが国の特殊事情として、もともと日本の建築ジャーナリズムは、建築作品や建築家に対して批判が少ないと思われますが、特に、ポスト・モダンが百鬼夜行のように出てきた80年代の建築には問題があると思います。センセーショナルなものが多く取り上げられ、商業主義的なものが持て囃される一方で、建築ジャーナリズムがそれに対してほとんど批判らしい批判を行ってこなかった点に問題があると思います。

今日、磯崎新や黒川紀章のように「コミッショナー」とか「プロデューサー」などと称する、いわば建築設計における手配師の立場に立つ人たちが出てくるのが新しい一つの風潮のようですが、私はこうした行為は批判されるべきではないかと思います。何よりもそこに、よりよき環境形成に対する意欲が感じられないのが問題だと思います。また今日、ポスト・モダンの流れ

の中で、建築デザインには消費的な風潮が強く、かってのタイムレス的な線が見失われてデザインの消費に終始していると思います。また、最近こうしたコミッショナーたちにも見られることですが、一般に外国の建築家を起用するケースが増えているのも問題だと思います。例えば京都駅や奈良の再開発のコンペの応募作品などを見ても、もともと精神風土や造形感覚を異にする彼らの作品が日本の古都にマッチしているとは到底考えられません。そこで「脱亜入欧」という言葉を思い出しますが、大国日本のナショナリズムの裏返しとしてまだまだヨーロッパへのコンプレックスが残っているのではないでしょうか。

また、わが国では、いまなお建築家の社会的地位が諸外国に比べて極端に低いと思います。これはマスコミなどにも端的に見られるように、日本の社会が全般的に建築文化なるものをほとんど理解していないところが大きいと思います。これこそ私が一番「なんとかならないか！」と思うことです。日本では、「和魂洋才」(西洋の器に日本の魂を入れる)という言葉があるように、明治以来建築家の仕事は、文化として社会的にほとんど認められて来ていないといえます。ヨーロッパでは、建築家の名前の付いた通りすら見られますが、およそ日本では夢のような話で、いまでも「建築家」でなく「建築師」—「設計屋」という考えが一般です。しかしアートの方は違います。例えば江戸時代の「絵師」は今日、芸術家としての社会的な地位が一般に認められて来ています。

街並みや景観という言葉が取り沙汰されて久しい昨今ですが、大阪市や神戸市など彫刻を道端に並べたり、グラフィックデザイナーに街並みや橋のデザインをやらせたりしている例からみても、建築文化に対する無理解さがよくわかります。都市景観づくりについて、そこに全体を取りまとめる人もいないし、何かアマチュアの小手先だけでやれるものと考えているように思われます。日本には街づくりの伝統がないからかもしれませんが、やはり餅は餅屋の目をとおして、街並みをつくることが必須の要件だと思います。例えストリートファニチャーのようなほんの些細なものであっても、これも大阪市の街路に見られるように、全体との調和を図らずにバラバラにデザインしていったのでは、よい街並みは出来ません。そういう意味で、街づくりは建築家にやらせた方が良く、こういうところにこそ建築家のコミッショナーとしての働きがものをいうのではないかと思います。しかしこの場合、モダニズムの思想の核ともいえる「無名性(アノニマス)」というデザインの線から考えて「建築家なしの建築」の方がむしろ街としては良くなるとも考えます。有名な建築家が勝手に周辺の環境に調和しないような個性のありすぎる建物をつくるのがいけないのではないでしょうか。そういう意味では、内井昭蔵氏がディレクターとして手がけたベルコリーヌ南大沢など数少ない成功例だと思います。

私は、久しく大阪府の文化財保護審議会の委員を努めて参りましたが、保護すべき建物がどんどん壊されていってしまい、その数が少なくなってきています。また、代表として丹下健三氏の旧東京都庁舎の例に見られるように、モダニズムの建築でも、最近はどんどん壊される事態に立至っていますが、当の設計者たちはそれについてほとんど何も言いません、一体どう考えているのでしょうか。　最近の若い人達の考え方はよく知りませんが、考え方も建物もいつまでも残るしっかりしたキバンの上にものを作っていく必要があると思います。そもそもアール・デコがもてはやされる今日の「お飾り建築」オンパレードの今日の浮わついた傾向・風潮、それが一番気がかりです。

趣味

いろんなことを同時にやれない性分なので、現役時代、やりたくともやれなかった絵にもっぱらうちこんでいます。油絵、水彩画、水墨画等、アレコレ楽しんでいますがストレス解消には何よりです。その他趣味としては、陶磁器鑑賞や映画や庭園などですが、旅行もまた若い頃から大好きで、洋の東西を問わず、よくいろんな所へ出かけて行って、建築ウォッチングを楽しんで参りましたが、これは当分まだまだ続けていきたいと考えています。

*

今も各地を訪れ精力的に建物ウォッチングを楽しまれるという先生の目に映る現在の建築の状況は相当に厳しいものがあった。端々に出てくる鋭い切り口の辛口のお話は久々に痛快ではあったが、先生の時代の財産を受けつぎ、担っていく我々に問われ、課せられた問題点の重要さを改めて感じることにもなった。いつまでもお元気で過ごされ、現代を叱咤激励しつづけて頂ける事を願わずにはいられなかった。

文責：佐野　洋(編集委員/日本設計)・伊藤郁郎(編集委員/日建設計)

GBRC ニュース
GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION OF JAPAN

財団法人 日本建築総合試験所
〒565 吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-872-0391　FAX.06-872-0784
業務時間 9:00～17:15(土曜休業)

平成６年度の事業計画

■平成６年度事業計画

平成６年度の事業計画は、最近の社会・環境の情勢に対応して、引続き、計画・環境調査などの受託、新館を活用しての技術研修など、さらに多様な業務の拡大に努めます。

また、当財団創立30周年(昭和39年４月設立)を記念して、この秋に「創立30周年記念祝賀会」などの記念事業も実施します。

その他、自主調査研究及び海外を含む関係機関との技術交流も推進し、職員の技術水準の向上と研鑽に努めます。

１．受託試験等事業

受託試験業務は、最近の建設業界の動向及び過去の受託状況等に加え、新たな需要に応えるため、試験設備・機器の整備を行い、各分野の業務を実施します。

また、受託調査研究業務は、前年度に続き、環境共生建築技術の調査研究、コンクリート充填フレームの開発研究などを実施します。

２．自主研究事業

当試験所が行う、また、他機関と共同して行う調査研究計画の主なものは次のとおりです。

(1)鉄筋コンクリート柱・梁接合部の耐力と変形性能に関する解析的研究

特に梁の曲げ降伏が先行した後、接合部パネルがせん断破壊する崩壊型をもつ柱・梁架構を対象として、その変形性能ないしは所要の変形性能を確保するための接合部パネルのせん断強度を解析的に明らかにする。

(2)水膜による延焼防止に関する実験的研究

京都や奈良などの伝統木造建築物(町家)保存の視点から、防火構造なみの性能を与えるために、実現性および有効性が高いと考えられるドレンチャー設備を用いた散水式水膜装置による延焼防止効果を検証する。

(3)ゆるい砂地盤における浅い基礎の動的・静的支持力に関する実験的研究(継続)

(4)基本形建物の変動圧力分布に関する研究(継続)

(5)砕石粉使用コンクリートの開発研究(継続)

３．審査・研修等事業

本年度も引続き、次の事業を実施します。

(1)建築主事の諮問に応じて、当所内に常設されている「建築技術安全審査委員会」に諮り、高さが45mを超え60m以下の高層建物等の安全性の審査（なお、当委員会は、毎月１回開かれる常任委員会において申込案件を審議します。平成６年度(前期)の常任委員会の開催日は、次のとおりです。6/15、7/20、8/23、9/21)

(2)大阪府や兵庫県が定めた「コンクリート工法に関する指導要綱」に基づくコンクリート工法研修

(3)骨材の巡回採取と試験、生コン工場などでの品質管理の監査

(4)JIS表示許可工場での公示検査

(5)緊急災害調査活動の連絡調整

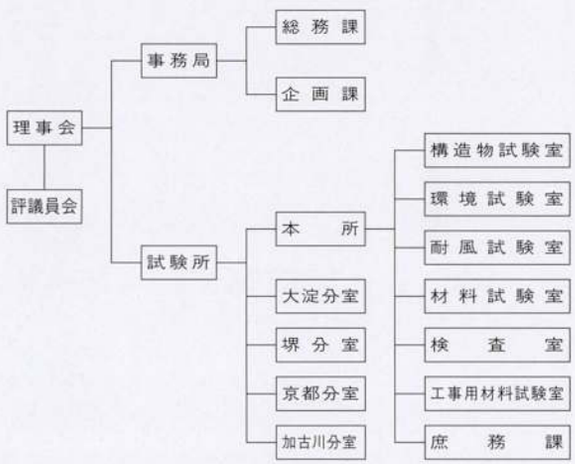
(6)関係行政機関又は建設関連企業からの依頼に応じ随時必要な委員会を設置する受託調査研究事業

(7)㈳日本建築材料協会と共催の建材研究会

４．施設整備

従来から推進している試験業務の省力化、迅速化を中心に作業環境の改善等を図るための施設整備を行います。

当試験所は、建築に関する公的試験・研究機関です。現在の組織は、下図のとおりとなっており、建築に関する試験・調査・研究について各分野が個別にあるいは相互連繋し総合的にお応えします。



＊電話番号案内
本所（大代表） 06-872-0391
工事用材料試験室
・検査室・土質基礎部門(代表) 06-834-0561
大淀分室 06-351-7217
堺分室 0722-44-3912
京都分室 075-622-0713
加古川分室 0794-35-5811

おかげさまで30年



アッ！
滑ってころぶ

いつどんな時に?
どんな場所で？
どんな人々が？

SAFE-STRIDE®
NON-SLIP?

アメリカでは年間約900万件、日本でも年間約15万件以上(厚生省による)の転倒事故が発生しています。原因の多くは滑りやすい床、雨の日や濡れた場所での事故です。
セーフストライド・ノンスリップは大理石や磁器タイル等の滑りやすい床やバスタブ等での転倒防止のためにアメリカで研究開発された、トリートメント技術です。

セーフストライドノンスリップ5つの特徴

1 屋内・内外など、特に水に濡れた場所での滑りを防止

2 コーティングではないので現状の美観を損ないません

3 床材を直接加工
効果の持続性が優れています

4 弱酸性の溶媒を使用
環境汚染などの危険なし

5 短時間で施工完了
コストパフォーマンスが優れています

NISSOKEI

日本相互警備保障株式会社
セーフストライドノンスリップ事業部
東京都新宿区大久保2-7-1

お問い合わせは
関西 06-304-8824
関東 03-3200-2141
東北 022-295-3569

新建材紹介コーナー 210

日本建築協会建材委員会

床すべり止加工

SAFE STRIDE

日本相互警備保障株式会社
関西支店　大阪市淀川区西中島7-8-17　〒532
(花原第5ビル4階)
TEL.(06)304-8824
本　社　東京都新宿区大久保2-7-1　〒169
TEL.(03)3200-2141

❶——はじめに

安全産業の事業領域が拡大してきた、警備という緊急危機回避の分野をイメージする業界は遠い過去のものとなったのである。その方向軸は三つある。第一は衣食住という生活空間の中でのリスクマネジメント。第二は空気清浄機や浄水器などの自由保障。第三は、ISO9000などのような商品自体の安全基準を中心とする基本的保障の方向性である。

今回、紹介する『セーフストライド・ノンスリップ工事』は、床での防滑を目的とする点で、リスクマネジメントの方向性を持ち、生活空間においては人間が歩くための土台である床に着目している点で自由保障の方向性を持ち、施工技術及び使用ケミカルの安全性から基本的保障の方向軸も備えているといえよう。

概要

商 品 名：セーフストライド・ノンスリップ工事
…床面防滑工事
メーカー：セーフストライド・プロダクツ
販 売 元：ポーテック・インターナショナル
輸入総代理店：日本相互警備保障株式会社
材　　料：形態 — 液体4種(弱酸性・ペーハー6)
色 — ピンク・ホワイト・グリーン・ブルー
施工方法：原液を希釈・調合のうえ施工
施工時間：2～3h/100㎡※施工後、乾燥の必要なし
対象材料：床材として使用される
自然石(大理石・御影石等)
タイル(磁器質・陶器質・炻器質・テラゾ等)
コンクリート材・モルタル材
ホーロー・エナメルバスタブの床面
※樹脂・ゴム等には、反応せず。

❷——防滑効果のしくみ

セーフストライド液剤は、ある一定時間石材に塗布することによって、石を組成する複数の物質に科学反応を施し表面の形状を変化させる。別の表現でいうならば、腐食させるのである。

その結果、今までの防滑技術として評価されている塗り付けによる表面処理や強制処理では不可能なミクロン単位の凹部を、状況に合わせて作ることが可能になる。

この凹部は、石材の表面に最大7ミクロン、最小2ミクロンの深さでランダムにでき主としてそこに溜まる水の表面張力によって、摩擦系数を高めている。

❸——数値評価及び確認

現在認知されている、ASTMによるこの商品の評価は下記(**表1**)の通りである。

また、国内の建築基準に使用されているB.P.N値は、まだ計測されていないが、最近INAX等でB.P.N値と合わせて使用している。C.S.R値は計測されているので、記載しておく。(**表2**：東京工業大学小野研究室実験データ参照)

また、『滑る・滑らない』の判断は『人の感覚』が大きく関与する。この工事は最終的に施主に確認を仰ぎ検収する形態をとっている。しかし『感覚』は人によって評価が異なる。今後、施工後の性能確認を客観的に評判できる方法の開発が期待される。

❹——あとがき

実際に施工した床材と施工していない床材を見比べてみると、タイルについては違いが分からない。水に濡らして比較することで、やっと確認することが出来る。鏡面仕上げの大理石の場合は、若干光沢が乱反射になるため違いが分かる場合はあるが、コーテイングやバーナー仕上げ、マットを敷く事と比較すると費用・耐久性・維持労力・美観等かなり期待できる商品ではある。

現在は、既存の建築物に対して営繕工事・修繕工事として展開しているが、ノンスリップタイルータイル素材として生産していく展開も考えられるのではないかと思う。

『セーフストライド・ノンスリップ工事』は日本でどのように展開していくのか？

安全と美の融合する新しいエリアの商品として注目すべき商品のひとつである。

松本　章／建材委員

施　工　工　程

現場調査 → 液剤の選定 → テスト施工 → 施工 → 完了 → アフターフォロー

現場調査	液剤の選定	テスト施工	施工	完了	アフターフォロー
使用石材の確認・コーディング、テープ等の有無・環境条件の確認	3～4種準備	1～2㎡テスト液状適合状態の確認・施主による立会い確認	防滑効果の均一化中和作業	施主による検収	施工に関するケア期間(2年間が基本)の保障書の発行

他の工法との比較

防滑処理方法	コーディング方法	バーナー仕上工法	セーフストライド・ノンスリップ仕上工法
美　観	素材が活かせない	素材が活かせない	目視による変化が少ない
効果の維持	コーディング塗料の摩耗度	凸部分の摩擦度	石材自体の摩擦度
価　格	¥3,000/㎡前後	¥20,000/㎡前後 ※張り替え工事の場合	¥5,800／㎡前後
衛生面	剝がれが生じると、ゴミが付着しやすく、とれにくい	凹部分が広く、ゴミが溜まり易く、清掃しにくい	フラットな石と殆ど変わらない
総　括	床面をビーズを含んだ塗料で覆うことで凹凸を作り摩擦係数を高めている。塗料によって防滑するのだが、石材と塗料の密着性・膜厚状況によって耐久性に課題があり、また剝がれが生じた際の衛生面も課題として残る。	石材の表面を凹凸に仕上げる。が、もともとの石の表面は、皆無となるため石の摩擦度はフラットな石の摩擦度より低下する。また、面が粗いためゴミが溜まりやすく美観及びメンテナンスの面で課題が残る。	石材の表面にミクロン単位の凹部を作る。もとの石の表面が多い状態の処理のため、耐久性が高い。また、凹部がミクロン単位のため、ゴミが入りにくく通常のメンテナンスのみで効果が持続する。(図1、2：都立工業技術センターデータ参照)

※今までの防滑の原理：石材の表面を凹凸にすることで、床の表面との接触部分に引っ掛かりをつくり摩擦係数を高める。
セーフストライドノンスリップ工事の防滑の原理：石材の表面に凹部を作り、そこに溜まる水の表面張力によって摩擦係数を高める。

表1　ASTM試験結果

0～0.5：滑る　0.5以上：基本的安全基準

種	質	状態	未塗布	塗布
クォーリー	ラバー	DRY	0.50	0.75
		WET	0.32	0.95
	レザー	DRY	0.35	0.58
		WET	0.22	0.77
セラミック	ラバー	DRY	0.43	0.48
		WET	0.22	0.82
	レザー	DRY	0.30	0.38
		WET	0.15	0.77

表2　SAFE-STRIDEに関するC.S.R

2～4：滑る　5以上：基本的安全基準

WET	未塗布	塗布
御影石	1.97	5.21
セラミック・タイル	4.51	5.67

※東京工業大学建築学科小野研究室データ

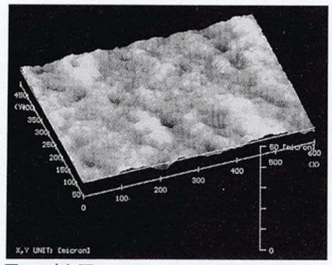


図1　未処理

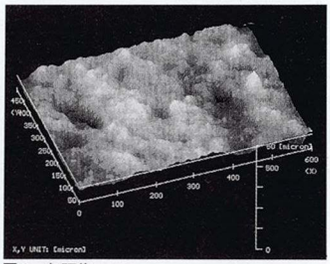


図2　処理後

建築の眼

組合せの妙

組合せによってどこまで一つ一つの単品を超えた利点を獲得することが出来るのだろうか。３月初に韓国へ行った。この国の秘策は組合せの妙にあると思った。646年創建の通度寺を見た。壬辰の乱で焼かれ1600年代前半に再建された韓国三大名刹の一つである。修理が進んで創建当時を想わせるように色あざやかに出来ている。ここには色彩の妙がある。色とりどりという状況は、現代都市にあっては、何も韓国に限ったことではない。しかしこの国では、信念として何かにつけ組合せの妙を探しているのではないかと思った。単品の特長を生かし欠点を他のもので補う。更には二つのものを組合せて別のものを作るという、まるで化学反応によって新素材を創り出すかのように考えたデザインの方法であると思った。通度寺の境内を流れる渓流の河原の石は、黒色と薄茶の白色との混合である。従って通度寺の参道の敷石には、この二色の組合せの妙を示す模様がある。近代は混ぜものを嫌った。純粋であることによる研ぎ澄まされた鋭さを競った。現代の複雑さを読み切って、単品では得られない別のものを見出すことが出来れば、明日に繋がりそうである。これは複合の様子を単に明解に示すというものではない。むしろ反応の後の姿を示すものでなければならないだろう。

河邊　聡　京都工芸繊維大学教授

新最小限住宅

大阪府の人口はここ２、３年873万人で、停滞若しくは減少しており、ここ５年間の年齢別人口の社会移動を見ると、働き盛りの30代、40代の担税力のある世帯主が隣接府県に流出している。大阪府の活力低下が危惧される所以である。人口の流出対策の一環としての住宅対策は、借家であれ持家であれ、まず府民が適正な住居費負担で定住できる規模の住宅を確保する事にある。その処方箋としては、土地の高度・効率的利用による、適切な家賃のファミリー向け賃貸住宅の供給や良質な中高層分譲共同住宅の供給などが主体となる。もし戸建住宅でそれを考えるとしたら、戸当りの敷地をできるだけ切り詰めながら良好な環境を図る、いわゆる最小限敷地の住宅となる。

建築家で、大阪大学の東　孝光教授の設計になる「塔の家」と言う最小限敷地に建つ住宅は、優れたデザインの作品としてつとに有名である。

街をスプロールさせた諸悪の根元の「建売住宅」。いずれも最小限敷地に建つ事に於いて、同意。しかし本質的には異なる。

これ迄の新しい試みに、ゼロロットハウスや一団地の総合的設計による「戸建集合」がある。もう一歩進めた優れたデザインや居住性の高い、高密な戸建集合に挑戦できないか。何事も創意・工夫の大阪魂。新しいチャレンジに期待したい。

笹川敏昌　大阪府企業局内陸整備部長

シアトリカル　パフォーマンス（演劇）

「建築雑誌」VOL.109．３月号と「SD」別冊No24は、期せずして劇場特集号である。前者は、プロデューサー、演出、舞台美術、照明、演劇史家・俳優：諸氏の劇場論、後者は、さまざまな劇場の実例が掲載されていて、大変興味深い。然し、演じる側の、ホールに対する評判は総じて悪く、所謂演しものに、ジャストフィットするコヤは少ないようである。現在の演劇は、1960年代後半、アングラ演劇の出現を契機に、所謂従来のプロセニアム演劇から、一挙に多種多様化してきている。一方、80年代以後、全国の公立ホール施設は、2000ヶ所ともいわれ、舞台機構、音響、客席等、ハイテクを駆使した立派なものが多いが、公的性格上、複合機能をもたせた、プロセニアム型の、プロトタイプをとったものが多い。私事で恐縮であるが、1955年前後、３年間アマチュア劇団に入り、裏方（舞台監督・大道具・照明）から、俳優（大根・2.5枚目）までを経験した。当時、新劇全盛時代で、大道具から脚本に至るまで、マニュアル通りの時代で、勿論プロセニアムの中で、キチンと納まるわけであるが、それでも１回限りの公演のために、ホールを替えることの難しさを痛感したものである。その頃の憑かれた様な情熱を、懐かしむために、又、劇場と演劇の互に触発し合っているさまを見るためにも、せいぜい出かけたいものである。

山下　勝　双星設計代表取締役社長

図は口以上に物を言う

最近、英語圏以外の建築家と打合わせをする機会があった。打合わせの方法は、図面上をお互いに鉛筆でなぞることであったが、十分ではないにしろ、立派に意志疎通ができるものだと実感した。図や絵のもつ情報の普遍性は人類の共通のものだからであろうか。

例えば、アルタミラの壁画は時間を超えて、我々に原始の姿を伝えるし、ボイジャー２号に搭載されている人類と太陽系を示した図は、時空を超えて、未知なる宇宙人へさえメッセージを伝えようとしている。

我々は建築設計図という、世界の共通言語を持っている。この共通言語はものをつくるという共通の目的意識をもっているので、一つの点でも、一本の線でも独立した意味をもっていることに特徴がある。さらにこれを視覚で情報交換するので、非常に伝達時間をも短かい。したがって、先に述べた打合わせも可能になるのであろう。

こうして見ると我々は、例え口は動かなくても、この建築設計図を通して、よりグローバルな世界で、意志交換・情報交換ができるしあわせな職業についていると大いに自負できるのである。が、それとともに、一つの点、一本の線が、口の代わりになることを充分に認識して、図面を作成せねばならないと改めて図面作成の重要さと責任を痛感した次第です。

藤崎安弘　㈱奥村組建築設計部長

特集●会員作品

NISHIO 東京支店ビル
日本精線クリスタルホール
YMC 技術開発センター
玖珂町・東部地区コミュニティセンター
東京都多摩動物公園ウオッチングセンター
大丸神戸店南館
土管の家
Ｉ邸
靱公園集会所
ランブラス嵯峨
広島県立びんご運動公園健康スポーツセンター
宗教法人トゥルース教新本宮
沖美町ふれあいセンター
Ｙ邸
曹洞宗円蔵院本堂
バンブー離宮

小林　恒　小林恒建築研究所
小南一郎　小南一郎建築研究所
長瀬博一　長瀬建築研究所
村重保則　村重保則＋現代建築設計事務所
川鉄エンジニアリング
双星設計
芝吹千昭　フリーハンド Co.
田中啓文　田中啓文総合建築研究所
塚口明洋　塚口明洋建築研究室
浅野　裕　建築計画A&A浅野設計室
小西吉太郎・小西郁吉　小西建築設計事務所
黒明節夫・西村善郎　ジャス
山田　保・上定正張　山田保建築設計事務所
岩本貞幸　岩本貞幸建築・都市研究所
森島照雄　森島建築設計事務所
浅野昭夫　浅野建築設計事務所

(掲載順不同)

明日に向かって

私たちの仕事は、明日への希望を膨らませて、毎日の作業に打込み、出来上がった作品には思い入れが多いものです。
この様なことから、今回初めての会員参加企画に相応しいタイトルとして、表記の題名を選びました。「明日」とは明るい日なのです。
この企画では、会員各位に掲載費用のご負担をかけませんが、経費上の問題もあり、作品の写真とコメントの提供を頂き、版もモノトーンで対応することとしましたので、果たして期待しただけの応募が頂けるか、また、多すぎて掲載出来ないものが出るのではないかなど、編集側にも心配の種は尽きませんでした。
しかし、会員各位のご理解を得て、力作16点の応募を頂き、ご紹介出来ることになりました。編集関係者一同感謝申し上げる次第です。
私と致しましては、もう少し広い分野（例えば、修景・造園・彫刻・インテリア等）からも応募を頂き、バラエティーに富んだ構成にしたかったのですが、その方面の応募を頂けなかったのは淋しく、次の機会には是非のご参加をお待ちしています。

編集委員会委員長●荒井　清

NISHIO 東京支店ビル

小林恒建築研究所

東京江戸川区に建つ某家具メーカーのためのショールーム機能を持った専用オフィスビルである。異常な程に変形した敷地は道路拡張計画によるものであり、この建物は将来は交差点に面することになる。

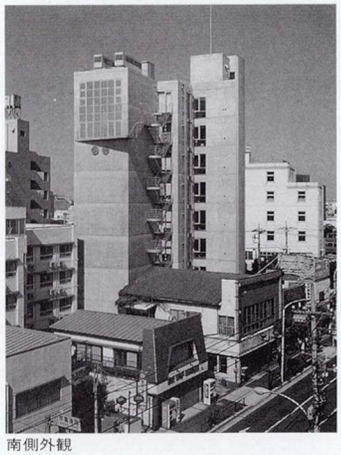
クライアントからの与条件は快適なオフィス空間であることは言うに及ばず、健全でありながらランドマークたる建物、そして20数台の駐車台数の確保である。地下に駐車装置を組み込むにはあまりにも地盤が悪く、工事費も掛りすぎる。試行錯誤の末、パーキングタワーを抱え込んだ訳であるが、基準階では何とオフィス面積の約半分を車の為に削除したことになる。

敷地の変形した部分に屋内階段やエレベーター、トイレ等のコア部分のすべてを配し、矩形の部分はすっきりとした事務室空間としている。その様に言えば簡単に納まっているように思えるが、防火区画や避難上の問題等でプランニングには可成り苦労した建築である。法的なものによる建物全体の高さ制限、上層の階には大空間をとらねばならない条件等により、車の進入はスロープにより半階分下げてある。その結果生まれたメザニンはエントランスホールと繋がり、余裕の空間をつくっている。このスペースは待合を兼ねたバーコーナーとして利用されている。

構造的にはSRC造を採用し、打放しのコンクリートボックスは北面を大きく開き、開放されたカーテンウォールとなっている。アルミニウムで構成されるフレームは外側に大きな格子グリッドを持ち、天空に溶け込むが如く輝くシリンダーのタワーと共にファサードを特徴づけ、建物自体のサイン化を図っている。（小林　恒）



北側外観見上げ



南側外観

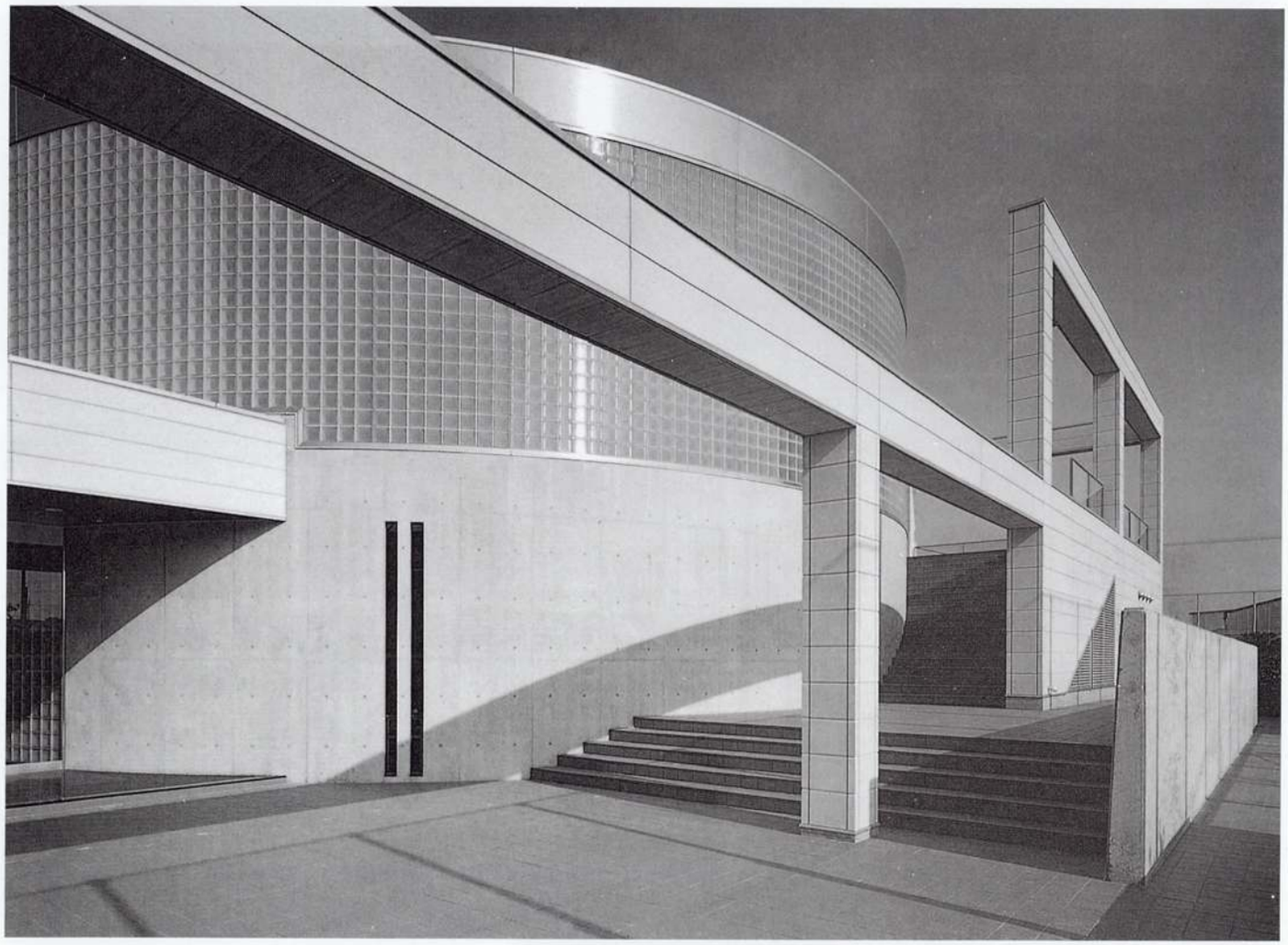


エントランスホール

所在地　東京都江戸川区東小松川1-8-9
設　計　小林恒建築研究所　小林 恒
施　工　錢高組・村本建設共同企業体
敷地面積　316.53m²
建築面積　180.73m²
延床面積　1,549.94m²
構造規模　SRC、一部RC、B1F、9F
工　期　1992年1月～1993年9月
写真撮影　関谷正昭（アーキメディア）

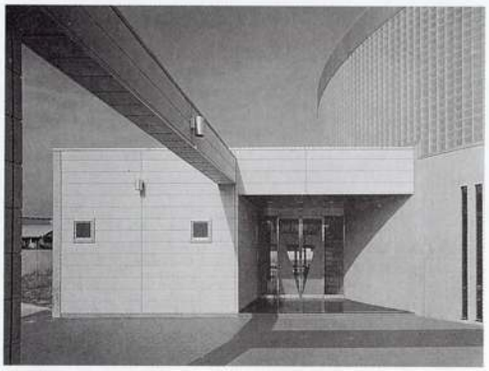
日本精線クリスタルホール

小南一郎建築研究所



この建物は、大手ステンレスメーカーの厚生施設として、大阪郊外の同社工場敷地内に建てられたものである。1階が社員レストラン、2階がアスレチッククラブ・研修諸室という構成となっている。計画に際しての大きなテーマの一つは“工場敷地内というコンテクストを得難いロケーションの中で、如何に建築を成立させるか”ということであった。本計画では、この敷地に隣接するグランドとテニスコートを取り込み、このエリアを工場内のオアシスゾーンとして一体的に緑化整備し、その中の核施設としてこの建築を位置づけることで、この場所に根付かせようと試みている。この建築は、6.5Mの平面基本グリッドの中に、半径が異なる2つの円を立体的に挿入させた空間構造をもっている。そしてこの基本グリッドと、挿入された曲面壁は、グランドとこの建物の間に中間領域としてのプロムナード空間を生じさせている。このエリアへのアプローチ空間、1階レストラン前のエントランスプラザ、それに続く曲面壁に沿って登る大階段、2階のデッキ空間、奥のテニスコートへ継がる路地的空間等……。これらは、この建築と、グランド・テニスコートを有機的に連繋させ、この建築をこの場所に根付かせると共に、このエリア全体に空間のゆとりと変化をもたらしている。

(小南一郎)

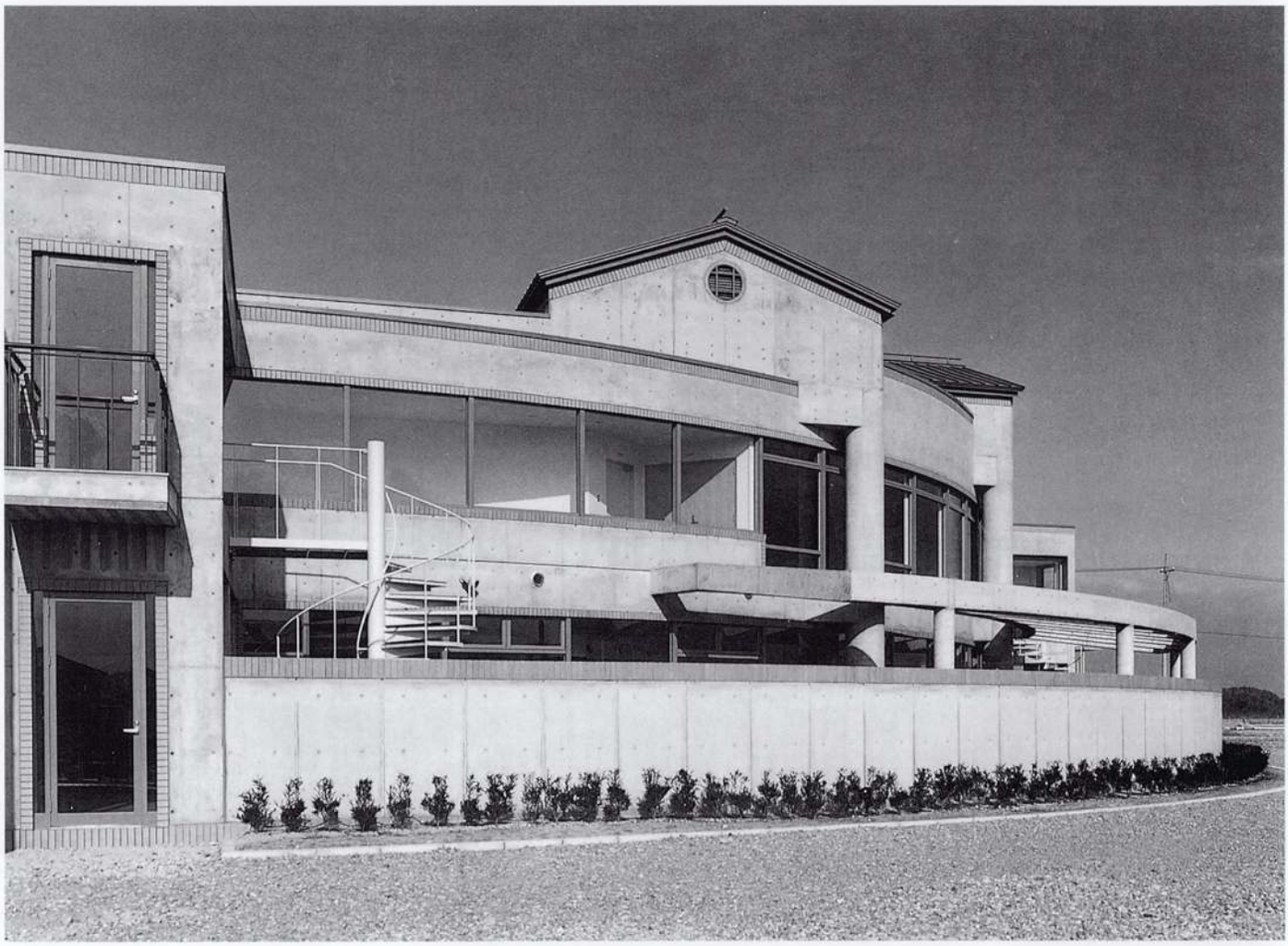




所在地　枚方市池の宮4-17-1
設　計　小南一郎建築研究所
施　工　フジミビルサービス
敷地面積　108,563.79m²
建築面積　690.90m²
延床面積　1,119.57m²
構造規模　S、2F
工　期　1991年11月～1992年5月
写真撮影　古田雅文

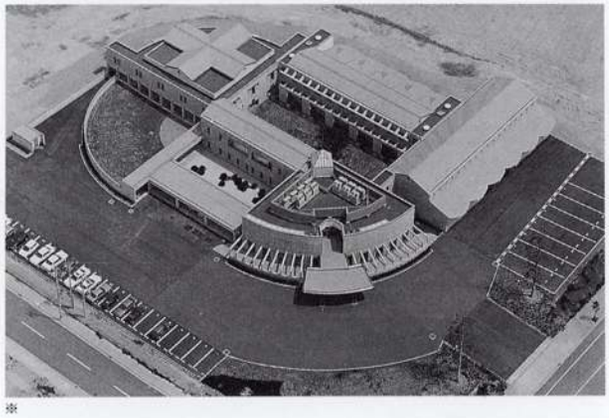
YMC 技術開発センター

長瀬博一建築研究所

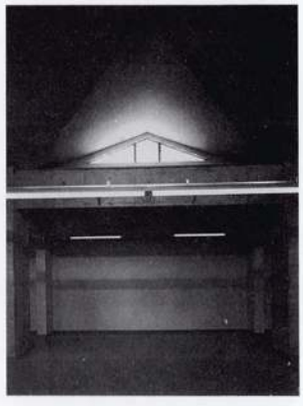


小松市東方の高台に広がる工業と住宅の為の平坦造成地の一画。背後にゴルフ場である丘陵地、遠望すれば白山の山系が連なる。自然(光、風、緑、地域環境独自の眺望等)と親和性を持った、ゆとり・潤いのある人間的空間の創成を願う。中庭・囲庭・小広場等の外部空間と室内との、様々のつながりを図り、単一ヴォリュームの建物でなく、分節化された複合体としての構成となった。それはまた機能上の必要から由来するゾーニングに依拠するものでもある。晩秋から春先までの北陸特有の低く垂れ込めた雲、そして雪空。雨の多いウェットでグレイッシュな風土性。そんな中ではコンクリート打放しの表情は、曇天や雨天時、特に重く湿ったものになりがちである。そこで様々の外部空間に緑や白砂、多様な建築の形態とアクセントとしての屋根、サッシの緑青色、要所に巡らせた淡茶色のタイルを配した。内部にあっても、材質や色調、種々の光の取り込みが空間に多様な陰翳を与え、内部と外部、複合した棟の全体が生彩ある表情を保ち、響き合うものを求めた。

(長瀬博一)



※



所 在 地　石川県小松市国府台5—28
設計監理　長瀬博一建築研究所
施　　工　真柄建設北陸支店
敷地面積　33,074m²
建築面積　2,031m²
延床面積　3,135m²
構造規模　RC・S、2F
工　　期　1991年1月～1991年10月
写真撮影　奥田耕作、大島知道(※)

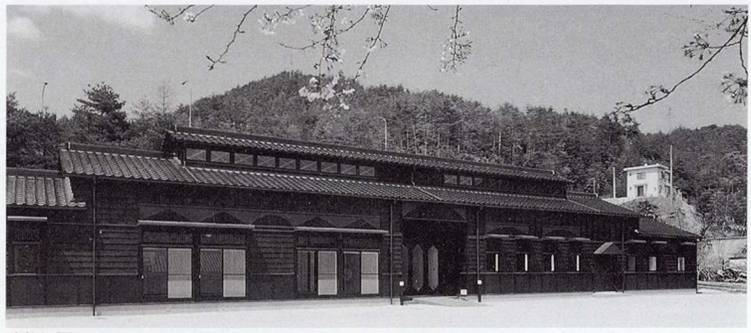
玖珂町・東部地区コミュニティセンター

村重保則＋現代建築設計事務所



北側道路よりの建物全景

このプロジェクトは、地域住民の集いの場、多目的に使える場として、玖珂町の最も東部に位置する場所に建設された。北に欽明路バイパスが走り、それに並行する道路沿いにある。計画に際して、この地域の環境、住民の方々の豊かな情感から、やさしさ「柔」のイメージをいだかせるには、構造は木造がふさわしいと考えた。また外部を黒で統一することにより、「力強さ」、「純粋さ」、「剛」のイメージを現した。内部空間は全体的に白色系でまとめ、外部と内部は黒と白の二元対比として成立した。（村重保則）



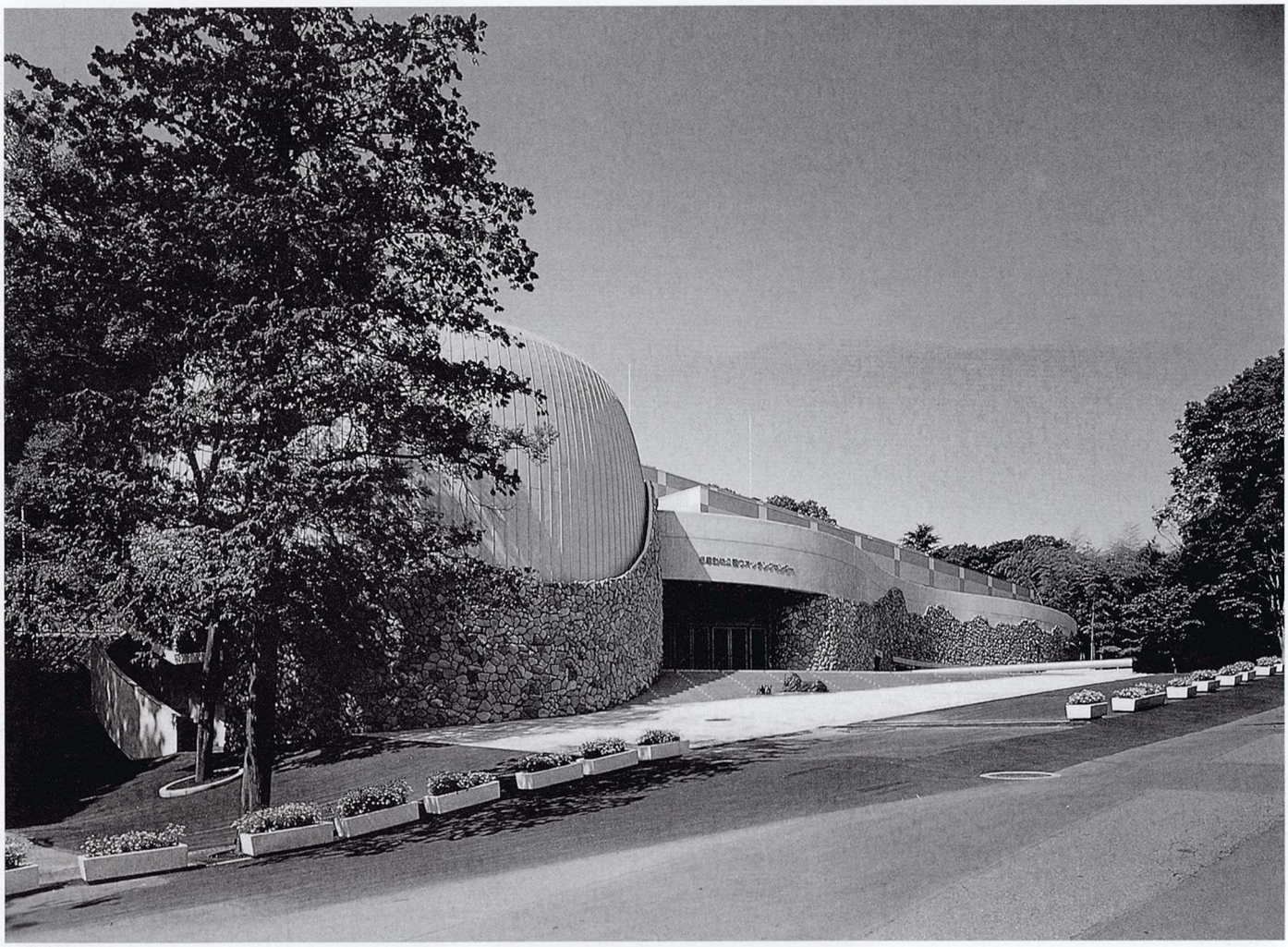
建物正面



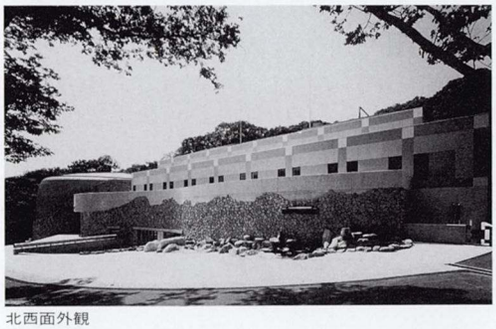
室内（研修室）を見る

所在地　山口県玖珂郡玖珂町1601－1
設計監理　村重保則＋現代建築設計事務所
施　工　石川組
敷地面積　1,594m²
建築面積　253m²
延床面積　247m²
構造規模　木造平屋建
工　期　1992年11月～1993年3月
写真撮影　磯谷写真事務所

東京都多摩動物公園 ウオッチングセンター



北東面外観



北西面外観



動物ホール内部

東京都は地球環境の悪化から、動物を保護するための動物園づくりを目指した「ズー2001構想」を掲げている。その一環として多摩動物公園内に、動物と生息環境について入園者が視覚的に学べる学習施設として、このウオッチングセンターが計画された。

自然が残る多摩丘陵の地形に合わせたこの建物は、「自然と生命の調和」をテーマとしている。東京都の新島で産出される坑火石を外壁に用い、大地の割れ目から岩肌がのぞいており、そのあいだから生命の起源を表す大きな卵が現れていると言うストーリーをもつ。

この大きな卵の中には300席収容可能な動物ホールがあり、9面マルチビジョンによる動物や自然の映像が上映される。

展示室内部には楽しみながら生命の尊さや自然の仕組みが理解できる展示となっている。特に環境体験ゾーンでは、動物の生息する環境を人工的に作りだし、映像とジオラマによって学ぶことができる。

2、3階は動物公園を維持管理するための庁舎となっており、傾斜地を利用した断面計画により建物裏側の2階で管理道路と接しており、一般客と管理の動線が明確に分離されている。

(加藤史明)

所在地　東京都日野市程久保7-1-1
設　計　川鉄エンジニアリング
施　工　大成・清水組建設共同企業体
敷地面積　523,660.34㎡
建築面積　2,098.83㎡
延床面積　4,340.64㎡
構造規模　RC、3F
工　期　1991年12月～1993年5月
写真撮影　三輪晃久写真研究所

大丸神戸店南館

双星設計

敷地は神戸元町の旧居留地内にある。百貨店の南側に３棟の歴史的な近代洋風建築物があり、うち１号館（旧居留地38番館）は外観を保存し、商業施設としてすでに活用されている。
今回、百貨店南館の増築に伴い、１号館に隣接した２・３号館をいったん取り壊し、増築部分のファサードとして新たに復元したものである。

（西田幸男）



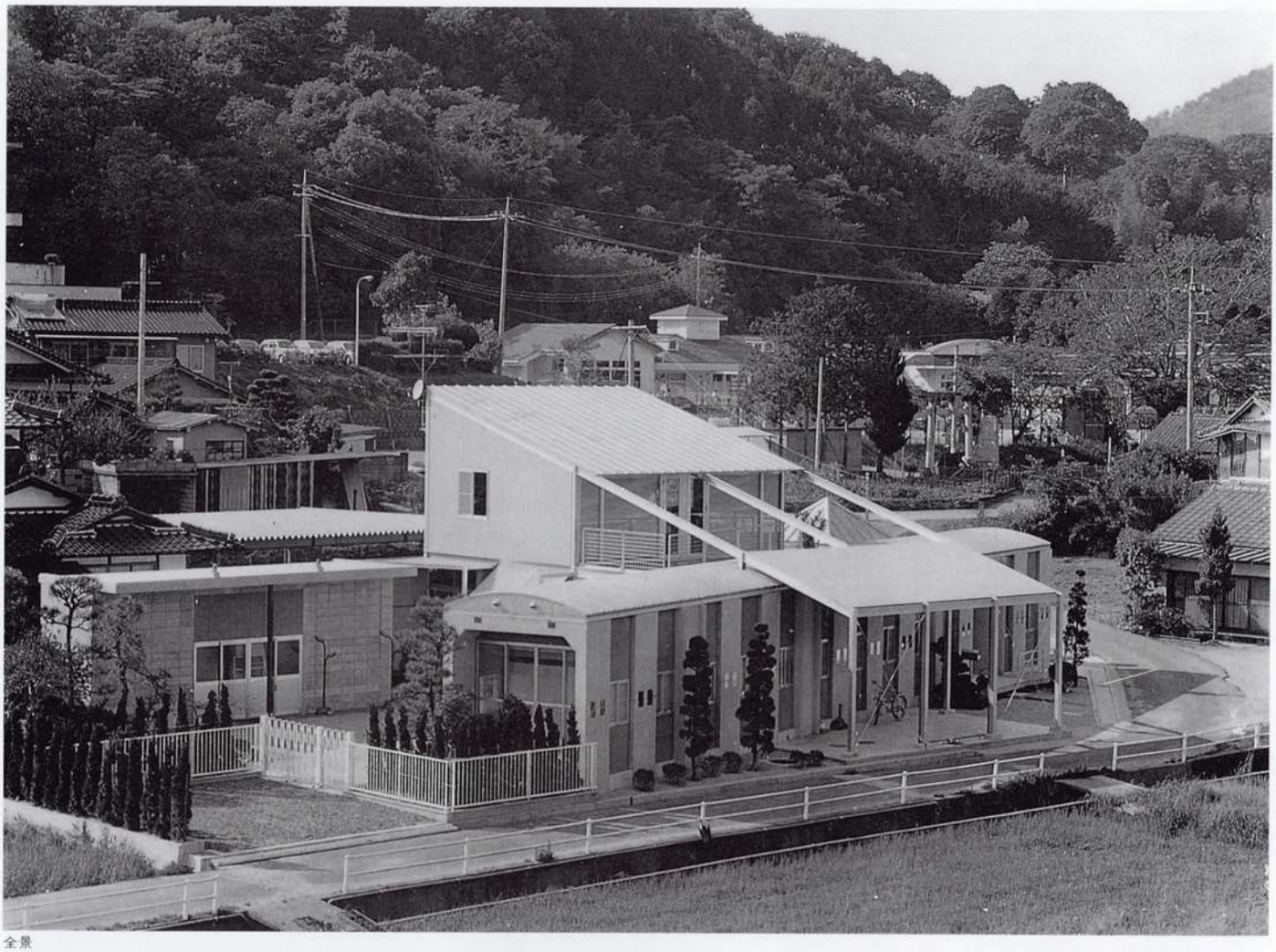




所在地　神戸市中央区明石町40番地
設　計　双星設計、K計画（ファサードデザイン協力）
施　工　建築／大林組
敷地面積　2,493m²
建築面積　2,135m²
延床面積　17,474m²
構造規模　SRC、B2F、9F、P2
工　期　1990年３月～1992年10月
写真撮影　ナトリ光房

土管の家

フリーハンド Co. 芝吹千昭



全景



片上鉄道の電車・駅舎をイメージした外観



住宅内のアトリウム

所在地　岡山県赤磐郡吉井町周匝字三反田1566-7, 8
設　計　フリーハンド Co. 芝吹千昭
施　工　日聖
敷地面積　594.8m²
建築面積　193.0m²
延床面積　211.4m²
構　造　ボックスカルバート（土木用）＋鉄骨＋コンクリートブロック
規　模　平屋建　一部2F（ギャラリー）
工　期　1992年1月～1993年3月
写真撮影　勝野信之

小さな城を頂く小高い山の麓に位置する当敷地の前面は田圃ではあるが、2～3年前に惜しまれながら廃止された片上鉄道を跨ぐ高架道路の擁壁が田園風景の遠望を閉ざしている。
この無用の長物擁壁も、2～3年後には撤去され、愛され続けた片上鉄道の線路敷も道路に変わるらしい。
アウトドアライフの好きなクライアントと、片上鉄道の話に花が咲き、我々の心は遠い少年時代へと帰って行った。昔、空き地で土木・建築資材を組み立てては、自分の砦を築いて遊んでいた頃の時代に……。
夢は枯野をかけめぐった！しかし、実際は、家相にも頭を痛めたし、コストの問題が最も重くのしかかって来た。
特に、クライアントの望むコンクリートにコストがかかり、工期もかかる。そこで積み上げて、並べて、組み立てたら完了という我々の砦造りを考えた。ボックスカルバート（土管）を採用したのも簡単でローコストだったから。
片上鉄道への幻影が時を駆けめぐらせてくれ、我々の砦が再び帰って来た。
“土管の家”とネーミングされたこの砦も、高架道路が撤去された暁には、通りすがりの人も片上鉄道の駅舎や電車を彷彿してくれるであろう。
ただ残念なのは、地元の無能業者が、クライアントの父親を騙して、1日で、我々の知らぬ間に植木をしてしまった。ローマは一日にして成る！か？この豊田商事め!!

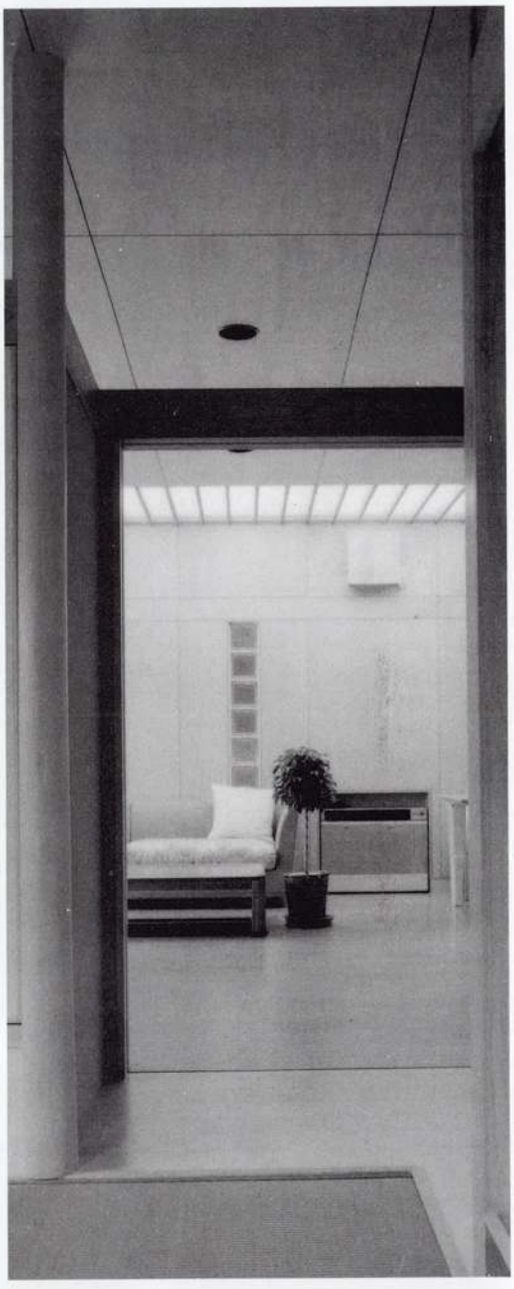
（芝吹千昭）

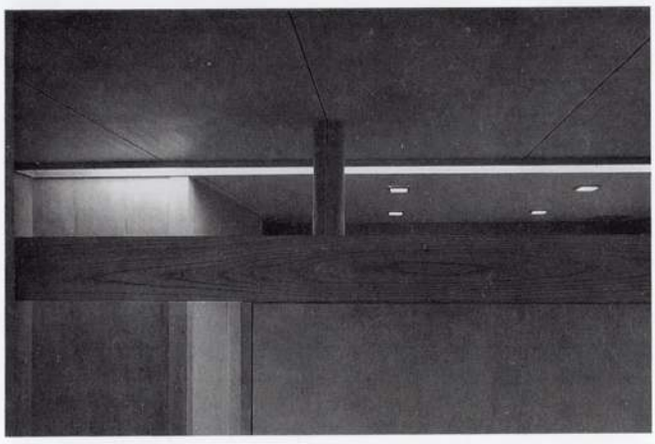
I邸

I 邸は、40坪の敷地に建つ４人家族のための住宅である。
平面プランは、１階に LDK・和室・水廻り、２階に個室を配したオーソドックスなものであるが、その中で各室が縦、横に繋って伸びやかな雰囲気を醸し出す心地良い空間創りを意図した。
水平方向の連続性を考慮した１階の各スペースは、シースルーの階段を配した吹抜空間によって、２階の個室群と一体化されている。
また、概ね３層分の高さを持ったこの吹抜空間の開口部が、この家の外観を特徴づけており、街並みと対峙しつつ、柔らかな光を導き入れる。

（田中啓文）









所在地　松原市新堂１丁目523-15
設　計　田中啓文総合建築研究所
施　工　阪上工務店
敷地面積　134.45m²
建築面積　80.66m²
延床面積　142.99m²
構造規模　木造 2F
工　期　1993年９月～1994年２月
写真撮影　中島崇夫

靱公園集会所

塚口明洋建築研究室



公園内遊歩道から見た建物全景 ※

所 在 地　大阪市西区靱公園内
設　　計　塚口明洋建築研究室
施　　工　昭和工務店
敷地面積　204.16m²
建築面積　105.80m²
延床面積　199.64m²
構造規模　ＲＣ壁式、２Ｆ
工　　期　1993年４月～1993年９月
写真撮影　大島勝寛（※）、塚口明洋

プログラム

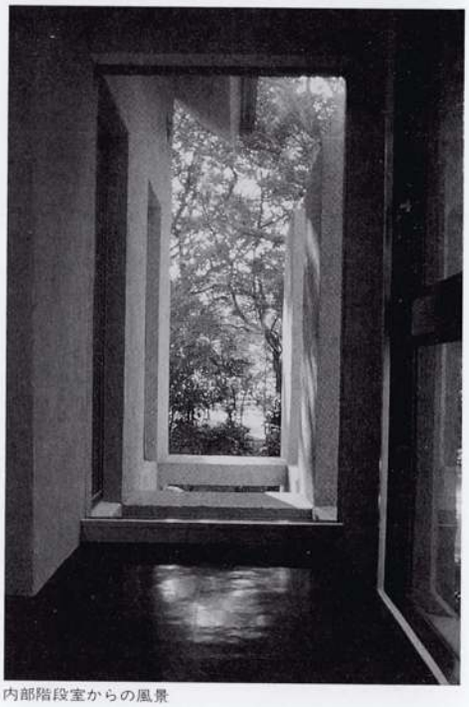
靱公園は、大阪市の中心部に位置する、比較的大きな公園である。ケヤキ等が繁り小さな森の様になっているこの場所で、多くの人が散歩やスポーツを楽しんだりベンチで昼寝をしたりと、思い思いの時間を過ごしている。

今回は、その靱公園の中にある小さな集会所を新しく立て替えるというプロジェクトである。

コンセプト

・公園の緑に溶け込む建物
・単純な形態で、単一空間の魅力を表現
　・光
　・解放された空間
　・リズム
　・スクリーン
・900グリッドの開口が連続する、３枚の壁。
・南からは、連続する開口から太陽の光が差し込み、北からは、２枚の壁を通して公園の緑が見える。

（塚口明洋）



内部階段室からの風景

ランブラス嵯峨

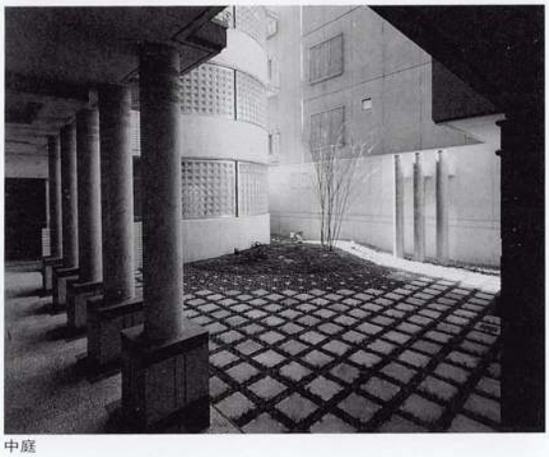
建築計画A&A浅野設計室

敷地はＪＲ嵯峨駅のやや西に位置し、丸太町通りを前面道路とする南北に細長い変形敷地である。
変形敷地の解決方法として全体を３つの棟で構成した。建物の正面性は丸太町通りに面して有るが、小倉山・嵐山を背景とする京都市西部の景観として考えれば、東面にも正面性が有ると考え、各棟毎に、小倉山・嵐山連山をモチーフとするボールト屋根をかけることで東方からのランドスケープを整えた。外装も落ち着いたせっき質のタイルをメインに一部花崗石とコンクリートの打ち放しを組み合わせることで周辺環境にふさわしいものとした。また、敷地内部に中庭を配す事で、採光・通風・プライバシー等の住環境を確保するとともに、玄関からのアプローチを演出した。近年、景観論争の盛んな京都であるが、大規模な都市計画的手法に頼るだけでは必ずしも良好な環境を生み出しているとは言えない、個々の建築的工夫の積み重ねが有ってこそ初めて町並みが形成されて行くものである。良質の賃貸住宅を供給すると言う現代的な役割を果たしつつ、今後の町並み形成のリード役となる事をランブラス嵯峨には期待している。
なお、本計画は日石エンジニアリング(株)の総合監理の元で、(株)アレフ・ゼロが企画・プロデュースした。

（浅野　裕）



東側外観



中庭



遠景

所在地　京都市右京区嵯峨天竜寺瀬戸川町9-1他
設計監理　建築計画Ａ＆Ａ浅野設計室　浅野　裕
施　工　錢高組
敷地面積　1,285.10㎡
建築面積　613.94㎡
延床面積　3,203.19㎡
構造規模　ＲＣ、６Ｆ
工　期　1993年２月～1994年１月
写真撮影　ＳＳ大阪

広島県立びんご運動公園 健康スポーツセンター

小西建築設計事務所



正面外観

広島県備後地域の「びんご運動公園」に県民のスポーツニーズにこたえ、健康スポーツセンターが整備された。本センターはスポーツ利用にとどまらず、コミュニティー活動の拠点としても活用できるように計画されている。

“びんご”は広島県東部の旧国名で山陽八ケ国の一つである。びんご(備後)といえば何といっても中世を語らずして、びんごは語れないと言うくらい、中世の歴史的文化が保存されている。その代表的なものに社寺仏閣がある。本堂の雄大な屋根面を正面とし、その脇には直角方向に切妻屋根の棟(庫裡)と、その両棟を結ぶ玄関(回廊)部分で一体とした伽藍(京都の石庭で有名な竜安寺)を思う時、アリーナ部は本堂にたとえ、大屋根を入母屋の形態をとり、サブアリーナ部分を庫裡にたとえ、メインアリーナとサブアリーナの間にある正面玄関は唐破風状のアーチ庇を設け、1階キャノピーには備後七郡(中世当時)を象徴する七本の列柱で構成した。また、中央広場より外部階段と中央デッキによってスポーツ施設利用者と観客との動線を外部で分離するよう計画した。この「びんご運動公園」は小高い山を切り開いたもので回りは山々で囲まれている。この山々との調和をはかるため、デザインポイントとしてはアーチ屋根を基本とし、平面的にも曲線を要所に配して、スポーツに対して親しみと潤いのあるものとした。本センターのゾーニングは、体育関連施設として県レベルの大会に対応可能な各種ボールゲームや柔剣道ができ、公園施設としての健康スポーツセンターは外部空間と内部空間が連続した環境となるように、アリーナ二方向の壁面を開口部を通じて楽しめるようにしている。さらに健康運動関連施設として各個人の体力に合わせた筋力トレーニングやエアロビックス系の各種運動ができ、知識面からも充実をはかる施設や、サービス関連施設として観覧席やレストラン、加えて急な天候の変化に対して退避場としてのポーチやホール等、広範な利用に対して、使いやすさと安全性を考慮した施設とともに、管理関連施設として公園全体の受付・管理と併せ、健康スポーツにおける適切な指導や相談を受けられる施設を確保している

(小西吉太郎・小西郁吉)



メインアリーナ



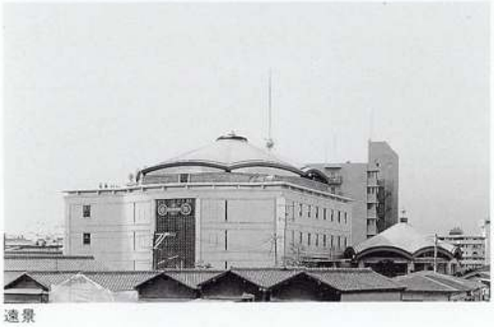
エントランスホール

所在地　尾道市栗原町～美ノ郷町
設計　小西建築設計事務所
工事監理　広島県都市局営繕課
　小西建築設計事務所
施工　安藤建設・三和鉄構建設
　共同企業体
敷地面積　びんご運動公園内　約87ha
建築面積　6,017㎡
延床面積　8,547㎡
構造規模　RC2F、一部S
工期　1992年7月～1993年6月
写真撮影　CF・フォトス　藤井千秋

宗教法人 トゥルース教新本宮



正面外観



遠景



2階大霊殿

建設地は、千里丘陵の一端にあり、万博公園の南側と名神に挟まれた高台に位置している。周辺の状況は旧本宮の創建時には、竹林に囲まれた緑濃い地であったが、後に万国博を契機に周辺開発が進展し、その聖域を住宅地の中に形成している。

周辺環境からの制約も多く、旧建物の外形寸法を守りつつヴォリュームを確保する必要があった。一層は地階とし、セットバックを積極的に用い5階もさらにセットバックし、近隣に対する圧迫感を少なくすると共に、周辺の環境形成にも寄与するようエントランス部分に、開放的なまとまりのある空間を確保している。

外観デザインは、名神を利用される遠方からの礼拝者にはランドマークと写るよう、又、建物全体としては宗教性を光で演出する三層の、重量感のあるものとした。外装は特殊面状ラスタータイルとアルミ、打放しコンクリートの構成とし、清楚な中にも存在感のある仕上げとした。屋根は周辺環境にも溶け込むよう銅板葺とし、慈悲を表わす柔らかな花弁形状としている。

前庭には道行く人々と親里帰りの教団の方々に、融和と慈愛に結び付くよう彼岸桜を、正面に配した。

（黒明節夫・西村善郎）

所在地　吹田市樫切山12番1号
設　計　ジャス
施　工　清水建設大阪支店・住研共同企業体
敷地面積　2,835.50㎡
建築面積　960.47㎡
延床面積　4,265.30㎡
構造規模　RC・一部S、BIF、5F
工　期　1991年6月～1992年12月
写真撮影　SS大阪

沖美町ふれあいセンター

山田保建築設計事務所



正面全景



エントランスホール



ふれあいホール客席

沖美町は広島県の南部、広島湾の沖合いに浮ぶ瀬戸内海国立公園内の島々のひとつで、広島港よりフェリーで40分のところに位置している。産業は漁業・農業を中心に成り立ち、特に広大なカキの養殖場は日本一と聞く。

沖美町ふれあいセンターの敷地は、前面を海に囲まれ山を背景にした、恰も風光明媚な瀬戸内海の自然美を集約した様な、すばらしい立地条件を備えた所にある。

ここに建つふれあいセンターは、周囲の景観と調和を図りつつ、町のシンボルとなりうる建物を目指した。クライアント側も町長をはじめ町担当課の建築に対する意識の高さと意欲がすばらしく強く、"新たな文化を生む建物を造る"ということで詳細な打ち合わせを行ってきた。

建物は福祉部門と生涯学習部門を中心とし町民が"ふれあい・語らい・健やか・集う・学ぶ"ことをテーマにした総合施設である。特にふれあいホールは町民の文化活動の向上を目指し、講演・演奏・演芸等に対応できるよう音響・照明等の舞台機能を充実することとした。周辺の公園化整備も進み、公園に植えられた桜等の樹木と共にこのふれあいセンターの成長・発展を期待するものである。（山田　保・上定正張）

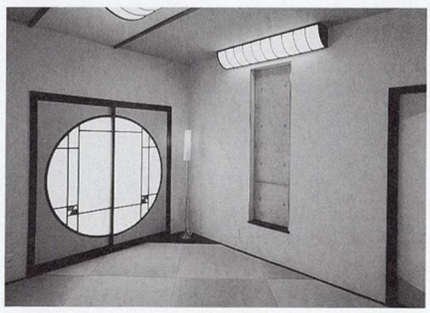
所在地　広島県佐伯郡沖美町美能833番地5
設計監理　山田保建築設計事務所
施　工　古澤建設工業
敷地面積　5,253.69㎡
建築面積　1,717.424㎡
延床面積　2,488.616㎡
構造規模　RC、3F、一部S
工　期　1993年2月～1994年3月
撮　影　宇和写真

Y邸

岩本貞幸 建築・都市研究所







当敷地は東大阪市内の閑静な住宅地の中にあり、古い住宅も数多い地域で良好な住環境が成立している。

施主は装飾品関係の会社を長年営まれ、国際的な特許技術を多く所有されている方で仕事上、住居への来客数も非常に多い。またスチュワーデスの娘さんを初めとして3人の大きな子供がおられ、この敷地規模からすると少し過分と思われる室数の要求と、多くの来客に対する建築の品位の確保が施主の仕事上からも必要と考えられた。

それらを無理なく計画に取り込むことが重要であった。

また違和感なく敷地周辺の環境に融和させ寄与しながらも、より良好な街並形成に、少しのインパクトを与えたいとする思いが写真のような「形」として具現化された。とくに建物の内部デザインに於いてはいわゆる「洋」の要素に抽出化された形としての「和」の要素を、我国特有の感性として空間に融け込ませることによって、いわゆる空間というものに要求される（その空間によって差はあるのであるが―）緊張感と安定感の融合を試みたつもりである。

（岩本貞幸・有田 智）

所在地　東大阪市
設　計　岩本貞幸 建築・都市研究所
施　工　リバー産業
敷地面積　222.72m²
建築面積　129.42m²
延床面積　259.14m²
構造規模　RC，3F
工　期　1992年8月～1993年4月
写真撮影　PCS

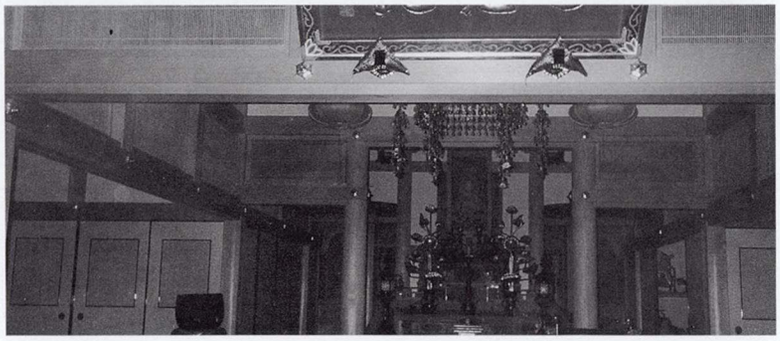
曹洞宗 円蔵院本堂

森島建築設計事務所



当初計画段階では予算等の関係で鉄骨造でという事であったが、建設委員会を重ねる内、矢張り、お寺は桧づくりの木造にしたいという意見が多く、オーソドックスな本瓦葺入母屋造りという事で落ちついた。近年、京都府南部ではお寺の建替えが大変多いが、その中でも出来栄えは注目されている。最も心配された予算面では建設委員等の努力もあり、工事費を充分カバー出来る寄附金も集める事が出来た。取りこわされた本堂は桃山時代の遺構で住職の想いも取り入れ、虹梁の一部にその古材を流用し、その面影を残した。平成元年1月より計画に入り、同12月に建設委員会発足、4年余りを費やし、平成5年10月、落慶法要が営まれた。本瓦葺という事で基礎工事も充分重力に耐へ得るものとし、床下の換気も充分に取る事も心掛けた。建設費も出来るだけおさえられる様に設計上配慮したが、当初の鉄骨造の計画より約2倍掛った。地桧等木材費がその中でも多くを占めている。

(森島照雄)



所在地　宇治市広野町寺山122
設計監理　森島建築設計事務所
施工　三林工務店・鳥居製材所
大信建設・田島産業
共同企業体
敷地面積　3,847.85m²
建築面積　459.72m²
延床面積　899.87m²
構造規模　純木造本瓦葺
工期　1992年2月～1993年10月
写真撮影　森島照雄

バンブー離宮

浅野建築設計事務所



北西面

バンブー離宮は、大阪府の南東部“河内ワイン”等ぶどうの産地として有名な柏原市にあり、歴史的にも奈良時代には大和と難波を結ぶ要所として栄えた所である。農地の宅地並課税等により農地が減りつつある今日、計画地周辺にはまだまだぶどう畑が広く残された住宅地がある。大阪平野を180°望む山沿いの計画地は、高低差が高い所では4.0mにも及ぶ傾斜地であり、南側が広く、北側へ狭くなり、敷地の真中を斜めに公有水路が流れるという複雑な地形であった。前面道路を除く四周がぶどう畑という事もあり、隣接地の日照影響・現況敷地形状の有効利用等考慮した上で基本計画を開始した。

まず、外壁色については、四季を通じてさまざまな変化をみせるぶどう畑と常に違和感を持たない様な色を選定し、建物本体については北側部分に駐車スペース・南側部分に住宅棟を配置することにより、現況敷地の盛土・切土を最小限に押さえ、また隣地への日照影響も敷地内で処理することを考えた。

各住戸の陽当たりについてもバルコニーを南面に設置する事により、日照をはじめ通風及び眺望について快適な空間を確立する事が可能になった。



エントランス前ポーチ



1Fエントランスホール

最後に、色々な住宅建設手法のある中、バンブー離宮の計画においては、居住性の向上のみにとらわれず、その地域の住環境にも十分配慮した生活環境の空間を提供する事が出来たと思う。

(浅野昭夫)

所在地	柏原市太平寺2-577-1
設計	浅野建築設計事務所
施工	大末建設
構造規模	RC、6F
敷地面積	1,825.17㎡
建築面積	608.04㎡
延床面積	2,625.17㎡
工期	1993年2月～1993年11月
写真撮影	アサノグラフィック

リサイクルシステム

生ゴミ処理器

辻田紀子 つじた のりこ
関西電力㈱お客さま本部市場開発統括グループ

本誌４月号44頁で紹介した関西電力のオール電化モデルハウス“エルハウス21”にある生ゴミ処理器は、最近大きな社会問題となっているゴミ処理問題を解決する一つの機器である。これは、
①嫌なにおいや汁が漏れることがない
②ゴミ出し作業の煩わしさから解放される
③園芸用肥料として再利用できる
などの利点もあり、たいへん注目を浴びている。

家庭における生ゴミの処理にはいくつかの方法があり、各メーカーが製品を販売しているが、ここでは、そのうちの３種類をご紹介する。

コンポストタイプ

生ゴミを媒体木屑と微生物によって攪拌・分解し、肥料として再利用するもの(三井ホーム㈱製)である。

本機に媒体木屑〝マムウッド〟を入れておき、水気を切った生ゴミを投入する。次に土中に棲んでいる微生物約10種類を粉末状にした〝マムパウダー〟を投入し、フタをする。すると自動的にスイッチが入り、生ゴミが攪拌されて炭酸ガスと水に分解され、蒸発し、生ゴミに含まれていた植物の三大栄養素などがマムウッドに吸着・蓄積され、肥料効果の高い土壌改良剤に変わるしくみである。

常温の状態で分解が可能で、残飯や魚の身などは１～３日で、魚の骨やカニの殻は７～10日程度で消滅する。

加熱・乾燥タイプ

生ゴミを攪拌しながらヒーター加熱によって温風乾燥する方式（松下電器産業㈱製）で、さらっとした扱いやすい乾燥ゴミになる。

生ゴミを本機に投入し、スイッチを入れるだけで自動運転を開始し、攪拌しながら温風で乾燥させる。この結果、生ゴミは約1/5に減量できる。例えば標準４人家族１日分のゴミ（約700g；松下電器調べ）の場合、約４時間で乾燥ゴミとなり、これを肥料として有効利用することができる。

また、ほかに消臭機能をさらにアップさせた機種もある。

消滅タイプ

自然界の微生物により、生ゴミを炭酸ガスと水に分解・消滅する方式（三洋電機㈱製）である。

あらかじめ処理槽内にいれておいた多孔質木質細片に、特殊加工を施した〝ホールチップ〟が微生物培養基剤の役目を果たして、生ゴミに付着していた微生物が繁殖、生ゴミを分解していく。

生ゴミを投入してフタを閉め、スタートボタンを押せば攪拌運転を開始し、分解・消滅されていく。そして本体下部のタンクには排水がたまり、液体肥料として活用することができる。

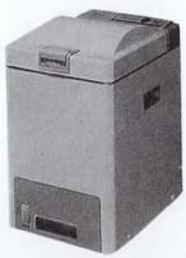
また冬期は気温が下がり微生物の活動が低下するので、ヒーターをマイコン制御して、槽内を適温に保つ。

*

各自治体でもゴミの減量化運動が活発化し、家庭ゴミの有料化等も検討され、一般の人のゴミ処理への関心も高まってきている。

いろいろな生ゴミ処理器の仕様・処理の目安一覧

詳しくは各メーカーにお問い合わせいただきたい。

		三井ホーム㈱製	松下電器産業㈱製	三洋電機㈱製
品番		BMA0001	MS-N30	SNS-T1（H）
				
処理方法		分解媒体剤によるコンポスト方式	ヒーター加熱による温風乾燥方式	培養基剤による消滅方式
寸法		W450×D367×H720㎜	W300×D445×H520㎜	W580×D450×H795㎜
本体重量		23.5kg	20.0kg	30.0kg
消費電力		ＡＣ100V、180W	ＡＣ100V、690W	ＡＣ100V、270W(最大)
１日の処理量		１kg(約２ℓ)	700g(４人家族で１日分の平均；松下調べ)	１kg
処理時間		野菜や残飯は２～３日、魚の骨や固い鳥の骨等は10日くらい	約４時間(700gを処理した場合)で約1/5の体積に	約１週間以内
リサイクル効用		マムウッドを土壌改良剤として再利用	乾燥ゴミを肥料などとして再利用	分解後の排水を液体肥料として再利用
メンテナンス		マムウッドを半年程度に１回交換する	特になし	ホールチップを半年に１回、２kg追加し、防虫剤を交換
ランニングコスト	電気代（各社調べ）	半年で約4,500円	１回当たり約30円	年間平均約８円/日
	媒体物価格	マムウッド・マムパウダーセット半年分で6,500円	―	交換用ホールチップ　3,600円 防虫剤　2,400円
標準価格		99,800円	128,000円	本体　185,000円 ホールチップ　50,000円

施工材料の頁　191

コンクリート用曲面型枠（ベンドパネル）

藤原厚生　ふじわら　こうせい
日昇実業㈱柏原工場製造部長

はじめに

時代の文明を象徴する土木、建築分野の技術水準は、我が国においてはすでに世界のトップレベルにある、といわれている。

機能性の目的を主とする土木、建築分野に「見て楽しむ」要素が加わり、それが曲面空間を生み、多種多様な設計が描かれている昨今である。

昭和50年当社が独自に開発した「ベンドパネル工法」は、この曲面空間の創造分野においてひとつの革新をもたらした。

ベンドパネルによって創造される美しいフォルムは、斬新な曲面空間を生み、土木、建築分野に次々と新しい可能性を提唱し続けている。

この分野の歴史から推察すると、機能性の追求であったわけだが、それはおおいに経済的な理由と思われるがしかしそればかりではなく技術的な問題に加えて、工期という問題もあったのではないかと考えられるのである。

これまで曲面空間の創造には大工が原寸を描き何日も要してコンパネ合板を切り刻んで型枠を製作していた歴史があるが、当社の「ベンドパネル」が開発されてからは、小は半径50ミリから大は半径無限大まで工場内生産で、しかもより精度の高い円形合板を提供することによりこの数年来の土木、建築物は特に曲面空間が多く使用されるようになっている。

また、この「ベンドパネル」の特徴を生かし、多種多様な型枠を製作することも可能になっている。

用途

用途としては、曲面のコンクリート用型枠はもちろんであるが、内装材にも多く使用されている。



写真１　螺旋階段のスラブ底型枠

但し本来合板であるので内装材として使用する場合は防災処理が必要である。例えば「発泡型防火薬液」等を塗布すればよい。

応用製品

基本はこの「ベンドパネル」であるが、このベンドパネルを応用することにより、単純曲線はもちろんだが、二次曲線型枠、三次曲線型枠をも可能にする。

また、螺旋階段のスラブ底（**写真１**）の様に捻りを生ずる型枠も可能になった。一般的に螺旋階段等はコンクリート打放なしが多く、その曲面捻りがその建築物にとって生命という場合が多いものであるが、当社は昭和63年に画期的な型枠を開発し、現在多く使用されている。球面体等は当社にとってはもう一般的な製品となっている。楕円球面体が双方から交差している型枠等その製品群は多種に及んでいる。

製品の受注から納品迄のプロセスは、ゼネコンまたは工務店と施工図を基にして希望及工法を十分打合せをし、当社で型枠図面を製作して承認を受けてから工場で製作し納品するということになるわけだが、納品時には型枠の組立図を添付するので、大工はその図面通りに建て込めばよい。

施工事例

⊙和歌山県白浜のホテル川久のエントラスホール（**写真２**）

楕円装飾柱に楕円梁及楕円スラブが基本となり、サイドから円筒形に楕円スラブを貫通し、明り窓となっている。

⊙滋賀県大津市のロイヤルオークホテルの屋根（**写真３**）

真上から見ると常に真円であるが、実際は円の芯が０点まで移動している。

⊙滋賀県志賀町町民会館の廊下天井（**写真４**）

円と円の一部が止メカットで処理され、コンクリートの素地のままの美しさが最大限に生かされている。

他社製品との比較について

円形型枠の分野においては、当社は草分け的存在であり、多くの苦い体験の末に「ベンドパネル」を開発した。しかし特許効力が失われた今日では後発各社が多く「ベンドパネル」を生産しているが、当社は品質管理を最重要視し、かつそれを応用する技術者の養成、三次曲立体図可能なコンピューターの導入等を実施しており、他社の追随を許していない。



写真２



写真３



写真４

「プロのノウハウ」講座・第11回

―構造計画と躯体コストについて――いま積算に求められているもの―

前田邦江

日本建築協会出版委員会委員
住まいの実技講座主宰

第11回の「プロのノウハウ講座」は、日本建築積算協会関西支部との共催で行われた。

第１部は須賀好富先生の「構造計画と躯体コストについて」というテーマにそって、資料「合成構造物の躯体コストスタディ」の解説と、オール工場生産品のＲＣ造柱および梁を組み立てる過程をスライドで見せていただいた。

近い将来、ＲＣ造の躯体を現場打コンクリートで造ることは珍しいこととなり、現在行われているようなＲＣ造の工法は希少価値的存在となるであろうと予測された。

第２部は生島道春先生の「いま積算に求められているもの」というテーマで、新しい公共建築積算体系とコスト管理のしくみについての話を中心に、積算業務の任務や問題点の指摘がなされた。

「積算は時代の落とし子」と言われた先生の意中には、今後目まぐるしく変化していく公共建築物の入札制度や積算に対する共通認識を高めることが業界に一層の活力を与えるであろうという確信があるようだ。

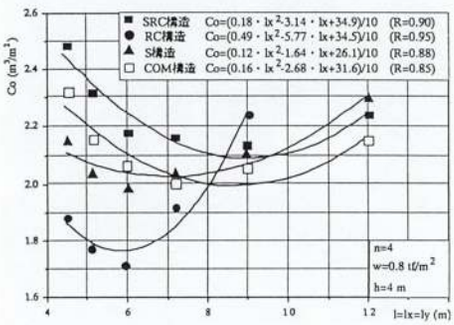
「構造計画と躯体コストについて」

建築物のコストに対する考え方は非常に大切なものという認識が定着してきているにもかかわらず、構造計画の段階では躯体工事費まで考慮されていないのが実状で、構造計画の良否で躯体工事費は大きく左右される。当然のことながら、合理的な設計をすれば躯体工事は低く抑えることができる――と須賀先生は結論を先に述べて、では、どうすれば合理的な設計ができるのか、OHPのデーターを示しながらわかりやすく説明をされた。



躯体工事費に影響を与える主要素は、スパン、階数、階高、床荷重で、これらの要素を合理的に追求していく過程で、圧縮材にはコンクリート系を、曲げ材には鉄骨系部材を使用して材料の優れた性質を適材適所に用いるという方法が生まれてきた。こうした合成構造について、須賀先生の研究グループでは、柱がSRC構造、梁がS構造の合成構造（COM構造）で４～10階建の中高層建築物のモデルを想定して、コンピューター解析によって建物設計条件が躯体工事費に与える影響を明らかにした。

下図はCOMとＲＣ、S、SRC構造の等価コスト比較グラフであるが、等価コストとスパンの関係を表している。この表によってそれぞれの構造の適材スパンがわかり、COM→8m、ＲＣ→6m、S→7m、SRC→9mとなる。等価コストが最小となる構造物は、スパンが8m以下ではＲＣ造、それ以上ではCOM構造となり、総合的にCOM構造が優れていることがわかる。



須賀先生のお話は一般に難解とされる構造の分野を明解に、さわやかな口調で語られるので、私のような構造嫌いでも、根本が実によく理解できて楽しく聞くことができた。

また構造デザインに対してもシビアな面とロマンを持っておられるので、言葉の端々に大変参考になる視点が込められており、構造の楽しさに引き込まれていくのである。そしていっぱし構造通になったような錯覚にとらわれるから不思議である。

「いま積算に求められているもの」

生島先生は、先生の著書「入門・建築積算」でイギリスの公認積算士の業務として、

(1) 基本計画時における建築主または建築家に対するコストアドバイス
(2) 計画の各段階における概算コストの予測および予算書の作成
(3) 特記仕様書および入札用数量調書の作成
(4) 入札および契約業務の援助
(5) 既済部分の評価、設計変更の積算およびその経済的効果の検討評価
(6) 最終工事費の算出

をあげ、以上を積算業務の概念を理解する一助にしてほしいと述べておられる。そしてわが国でも(4)や(5)は一般に行われてきたものの、(1)のコストアドバイス業務や(2)の概算コストの作成業務についてはまだ本格的ではないと指摘している。



今回の講演も資料「新しい公共建築積算体系とコスト管理のしくみ」のマニュアルについて、

(A) 新積算体系再構築の目的
(B) 新積算体系の概要
(C) 建築工事のコスト管理

の各項目は分析が不足しており、問題点をかかえていることを強調された。また積算にかかる時期についても、かなり初期に設計者との共同作業として行われるべきで、設計における部分をリードするくらいの役目をはたすのが望ましいと持論を話された。

さらにLCC（ライフ・サイクル・コスト）まで踏み込んで、適正な経済活動が回転していくようなベースづくりを担わなくてはならないとも。

これまで積算の意義や役割を便利に、ご都合主義で扱っていなかったか、きびしい反省を込めた問題提起をされたように思う。

日本では積算は専門的な教育システムがないが（一部の通信教育を除いて）、イギリスの建築関係コースでは延べ550時間も積算士に専門教育を行っており、その社会的地位も高い。日本も積算業務によって建築コストの妥当性を追求してきちんとした適正コストを構築していく必要があるし、そのためには、制度的な改革も含めて様々な試みが必要となってくるようである。

合同による質疑応答

両先生への合同質疑も活発に行われ、勉強会は最後まで緊張した雰囲気であった。

須賀先生にはCOM構造やオールプレハブによる躯体工事への質問、また生島先生には積み上げ単価方式、総合単価方式への応用のしかたについて実務的な質問が行われた。

最後に私が、生島先生が提唱されているライフサイクルコストを踏まえた立場で、もし須賀先生が提案されるとしたらどんな躯体構造を私たちに推薦して下さるのだろうかと質問をさせてもらった。

須賀先生は即座にCOM構造のメリットをあげて、研究データーに基づいて条件チェックを入念に行って、合理的な方法を採用すべきだと答えられた。その上で、コンクリートの柱でも凹凸を成形したり、壁や窓の組み合わせをセンス良く行うことで、構造美を演出するよう要望された。

デザインへのセンスを常に研ぎすませて、選択を適確に行うことが重要であり、つまりCOM的感覚の必要性を比喩的に答えて下さったのである。

日　時　平成６年３月29日(火)
　　開場14:30 開会15:00～閉会17:30
会　場　大阪府建築建保会館・多目的ホール
講　師　須賀好富氏／近畿大学教授・工学博士
　　生島道春氏／㈱日積サーベイ代表取締役
司　会　前田邦江氏
参加者　148名

ル・コルビュジエ油彩展

ギャルリー・タイセイは、ル・コルビュジエの油彩画7点を初期のピュリスム期から晩年まで、年代順に展示し、その作風の変遷をたどる展覧会を開く。

会　期　1994年6月6日(月)～7月29日(金)
10：00～17：00　(開廊日は月～金曜日)
会　場　ギャルリー・タイセイ（新宿センタービル）
東京都新宿区西新宿1―25―1
TEL 03-5381-5510
入場料　無料
出　品　『静物』1926年、『レア』1931年、『女性のアコーディオン弾きとオリンピック走者』1928～1932年、『座る二人の女性―コルセット』1935～1947年、『アコーディオンを持った踊る女性』1949年、『静物』1923～1953年、『牡牛XVIII』1959年

病院建築基礎講座―(社)日本病院建築協会―

(社)日本病院建築協会は、病院建築の初心者を対象に、基礎的な知識を平易に解説する講座を、昨年に引き続き開催する。

一般公開であり、設計事務所の新人、病院をこれから手がける建築家、病院関係者の参加を募っている。

会　期　1994年6月13日(月)、14日(火)
9：30～16：45
会　場　明治大学会館
東京都千代田区神田駿河台1―1
定　員　120名（定員になり次第締め切り）
受講費　日本病院建築協会会員20,000円
一般40,000円
申　込　受講者名・勤務先等必要事項を記入し、郵送またはFAXで、日本病院建築協会（〒108東京都港区芝5―26―20 TEL03-3453-9904、FAX03-3453-7573）へ。
申込みと同時に、受講費を銀行または郵便局へ振り込む。問い合わせは、同協会へ。

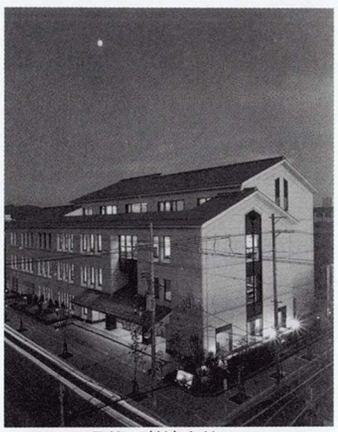
■6月13日のプログラム
全体計画／栗原嘉一郎（筑波大学教授）
病棟／長澤　泰（東京大学教授）
病室／筧　淳夫（国立医療・病院管理研究所研究員）
外来部／中山茂樹（千葉大学助手）
手術部・分娩部／今井正次（三重大学教授）

■6月14日のプログラム
特別講義／厚生省健康政策局指導課
放射線部／河口　豊（国立医療・病院管理研究所部長）
検査部・リハビリテーション部／山下哲郎(東京大学助手)
供給部／中野　明（京都女子大学教授）
設備／高野重文（高野重文建築事務所所長）

第3回きょうと景観賞決まる

隔年で行われている「京都市都市景観賞」（きょうと景観賞）は、平安建都1200年の今年は、応募作品も172点に上り、3月の最終審査会（審査委員長：伊東一信）の結果、入賞11点、入選6点が決定した。入賞作品11点を写真に示す。

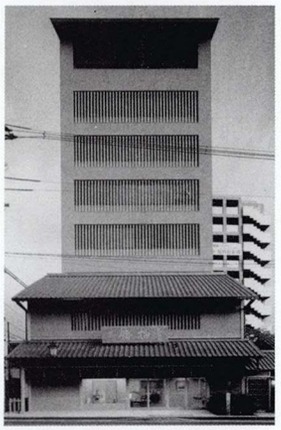
京都市都市景観賞は、応募時からさかのぼって5年以内に完成し、自然景観やまちなみ景観に調和し、京都の歴史伝統文化に対する理解と配慮がなされ、意匠・デザイン・技術に優れ、関係法令に適合しているもので、京都市内にある建築物、緑地、広場、屋外広告物を対象とする。



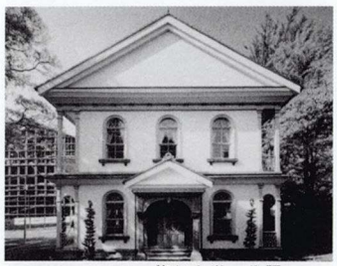
京都市長賞・**月桂冠(株)本社**
京都市伏見区南浜町



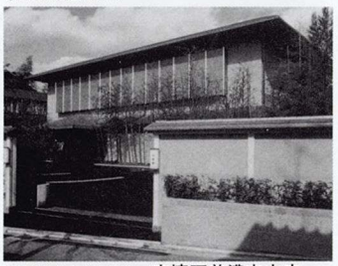
京都市長賞・**住信振興四条烏丸ビルとK・I四条ビル**
京都市下京区烏丸通四条下ル、四条通室町東入ル



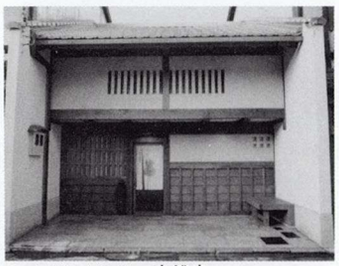
京都市長賞・**鶴屋吉信本店・本社**
京都市上京区今出川堀川西入ル西船橋町



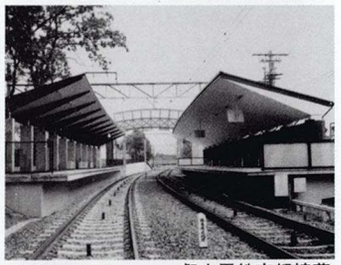
京都府建築士会会長賞・**龍谷大学・北黌**
京都市下京区大宮通七条上ル御器屋町



京都府建築士会会長賞・**京懐石美濃吉本店竹茂楼**　京都市左京区栗田口鳥居町



京都府建築士会会長賞・**麦糟庵**
京都市上京区椹木町通西洞院西入ル



〔土木工作物〕京都市長賞・**叡山電鉄京都精華大学前駅舎**　京都市左京区岩倉木野町



〔緑地広場〕京都市長賞・**北垣知事銅像復元周辺整備**　京都市左京区聖護院連華蔵



〔緑地広場〕京都市長賞・**桂坂野鳥園**
京都市西京区後陵北大枝山町



〔屋外広告物〕京都市長賞・**(株)御池**
京都市中京区油小路通四条上ル藤本町



〔屋外広告物〕京都市長賞・**新京極商店街シンボルマークと光ファイバー**　京都市中京区新京極通

CG Osaka'94

10回目を迎えた Computer Graphics Osaka'94。今回は〝コンピュータ画像に関する総合技術展〟として、CG/CADを中心とした画像生成技術や周辺技術と併せて、計測・検査を目的とした「画像処理技術コーナー」を設置する。主催は㈳日本能率協会。

■展示会「ここまできたコンピュータ・グラフィックスの世界」

会　期　1994年6月22日㈬～6月24日㈮
10：00～19：00（最終日は17：00まで）

会　場　マイドームおおさか
大阪市中央区本町橋2－5

入場料　1,500円

内　容　シミュレーション、CAE／CAD／CAM、デザイン、プレゼンテーションやマルチメディアに応用されているCG技術に関する最新のハードとソフトを展示実演。

■CG見学会（関西文化学術研究都市にて）

日　時　1994年6月22日㈬　10：00～12：00

見学先　㈱国際電気通信基礎技術研究所
松下電器産業㈱中央研究所

定　員　80人

参加料　後援・協賛団体会員8,240円

■シンポジウム（パネル形式　計12セッション）

CG、CAD／CAM／CAE、マルチメディア、さらにはモービルコンピューティングにまで言及し、最新のコンピュータ画像技術の世界を紹介する。

会　期　1994年6月23日㈭～24日㈮
両日とも9：30～12：30、14：00～17：00

会　場　ホテルアウィーナ大阪・金剛の間
大阪市天王寺区石ケ辻町19-12

参加費　後援・協賛団体会員16,480円（1～3セッション参加の場合）

詳細は、㈳日本能率協会 TEL06-261-7151へ。

横浜市が国際建築設計競技

横浜市は、「横浜港国際客船ターミナル」を横浜港のシンボルとして、また国際交流の場にふさわしい施設とするため、国際コンペで優れたデザインを求めている。登録受付締切は本年6月30日。応募作品受付締切は本年12月12日。審査は1995年1月中旬。

競技は、有資格者（一級建築士、外国人はそれに準ずる）による国際公開建築設計競技で、最優秀作品に選ばれた建築家には設計業務が委託される。

審査員　芦原義信氏、磯崎新氏、伊東豊雄氏、レム・コールハース氏、渡辺定夫氏、木下マサヲ氏、森本靖之氏、有馬真喜子氏、中野善寿氏、廣瀬良一氏

問い合わせは、横浜市港湾局内・横浜港国際客船ターミナル国際建築設計競技事務局（045-671-7359）へ。

「1994建築仕上フォーラム」のシンポジウム開催

会　場　「パシフィコ横浜」国際会議場5Fホール

定　員　1セッション当たり400人、座席指定制

受講料　1セッション当たり3,000円、前納制

申　込　受付は6月1日開始。建築仕上フォーラム運営委員会（〒111　東京都台東区小島1－4－8－201、TEL03-3865-8999）へハガキで。

■9月16日㈮　10：30～13：05

『未来都市論』（講演）　司会：坂本　功（東京大学）

第1部　伊藤　滋（慶応大学環境情報学部）

第2部　岡部憲明（レンゾ・ピアノ・ビルディング・ワークショップ・ジャパン）

『21世紀の家づくり―低層木造住宅の新しいかたち』

司　会　小谷部育子（日本女子大学）

パネリスト　上杉　啓（東洋大学）、石福　昭（早稲田大学）、太田房江（通産省）、岡河　貢（建築家）

■9月17日㈯　13：00～15：30

『都市住宅としての集合住宅―21世紀の都市型集合住宅を求めて』　司会：深尾精一（東京都立大学）

パネリスト　内田祥哉（明治大学）、布野修司（京都大学）、早川邦彦（建築家）、藤本昌也（建築家）、マルク・ブルディエ（仏・建築家）

国際デザイン・コンペティション、テーマは「触」

㈶国際デザイン交流協会（大西正文会長）は、第7回国際デザイン・コンペティションの応募作品の受付を開始した。

このコンペは、グラフィック、パッケージ、インダストリアル、クラフト、インテリア、建築、環境など、あらゆるデザイン分野のデザイナーの参加のもとに、デザインのあり方、デザインの果たすべき役割を改めて問い直そうとするものである。

テーマ　「触」―人間性の回復のために―
――人と人の触れ合いはコミュニケーション。人と物の触れ合いはインターフェイス。触れ合いを確かなものにするために、人間が本来持っている感覚、機能を引き出すために、私たちは何をすべきかを考え、行動する時が来ている。〝触〟というテーマを手がかりにして、地球上の生あるものすべてのために、デザインは何ができるのか、その可能性を深く考察した提案を期待する。（応募要項より）

審査員　●第1次審査員／青葉益輝（グラフィック）、黒川雅之（プロダクト）、田中央（プロダクト）、原広司（建築）、ジャンフランコ・ザッカイ（プロダクト、アメリカ）

●最終審査員／青葉益輝、黒川雅之、ジャンフランコ・ザッカイ、ニコ・スペルブリンク（グラフィック、オランダ）、クロード・ベリューベ（インテリア、カナダ）

賞　大賞1点35,000米ドル、金賞1点11,000米ドル、大阪府知事賞1点11,000米ドル、大阪市長賞1点11,000米ドル、銀賞1点6,000米ドル、銅賞3点各2,000米ドル

対象分野　いくつかのデザイン分野にわたることも自由。

応募資格　全世界のあらゆる分野のデザイナー、技術者、学生。個人またはグループで。

応募方法　出品票と応募作品、手数料1000円分の切手を添えて送付。使用言語は日本語、英語。

日　程　1994年12月26日　第1次審査出品締切
1995年3月　第1次審査
1995年7月　最終審査

資料請求　応募要項は、氏名・住所を明記して270円分の切手を同封し、下記へ請求する。
㈶国際デザイン交流協会　TEL06-346-2611
〒530　大阪市北区梅田1－3－1－800

「デザイン・名古屋'94」デザイン・コンペ作品募集

10月に開催される「デザイン・名古屋'94」の、今回のコンペのテーマは「交流」のデザイン。

人と人とが交流するという視点からとらえたツールやスペースやシステムなど、また、交流を切り口にした新しい価値観を生み出す技術や情報あるいは商品などの提案を求めている。出品料無料。

募集対象　グラフィック、プロダクト、ファッション系、都市計画・地域開発・建築・インテリアなどのスペース系まで、あらゆるデザイン分野。

資　格　個人・グループで、日本国内在住者に限る。

審　査　2段階審査。一次で入選作品を選定、二次ではパネル、実物、模型を対象に決定。

審査員　岡本滋夫（中部デザイン団体協議会）、木村一男（国際デザインセンター）、品川誠（名古屋造形芸術大学）、仙田満（環境建築家）、松永真（グラフィックデザイナー）、森山明子（にっけいでざいん）、崔在銀（アーチスト）、長井隆弘（外古屋市経済局）

出　品　一次はパネルによるプレゼンテーション。企画意図400字以内とスケッチ、イラスト、設計図などから適切な表現方法を選んで、A2サイズパネル3枚以内にまとめる。
1994年7月29日㈮までに届くよう郵送で。
〒451　名古屋市西区城西2－21－8 デザインコンペティション事務局 TEL052-524-3011。

賞　グランプリ1点賞金150万円、一席1点賞金50万円、二席3点各20万円、審査員賞5点各10万円、入選若干名各5万円

日本建築協会

月間の動き

【平成6年3月分】

定時評議員会

23日・5時～5時半・於本会会議室
出席者　高橋保夫議長ほか45名（委任状共）
議　事　(1)評議員会議長及び副議長互選の件
(2)会長、副会長及び理事改選の件
(3)平成6年度事業計画(案)の件
(4)平成6年度収支予算(案)の件

理事会

第9回定例理事会
23日・4時～4時40分・於本会会議室
出席者　佐野会長ほか26名
議　事　(1)会長、副会長及び理事改選の件
(2)常務理事選任の件
(3)平成5年度第3回定時評議員会提案議案の件
(4)入退会者承認の件
(5)報告事項その他

編集委員会

第12回会員企画小委員会
1日・6時半～8時15分・於本会会議室
出席者　高橋副委員長ほか2名
議　事　(1)シリーズものの報告と掲載予定
(2)次年度の委員編成
第12回作品作風小委員会
3日・6時半～9時半・於本会会議室
出席者　松田副委員長ほか5名
議　事　(1)作品の掲載状況・予定の報告並びに選定
(2)「Gallery」.「SKETCH BOOK」掲載報告・予定
(3)次年度の委員編成
第8回施工材料分科会
9日・4時～6時・於本会会議室
出席者　志水幹事ほか3名
議　事　特集（6月号）まとめ
第10回編集委員会
10日・6時半～9時半・於本会会議室
出席者　吉村幹事ほか4名
議　事　(1)5月号「会員作品」特集経過報告他
第3回計画系分科会
18日・6時半～10時15分・於本会会議室
出席者　吉村幹事ほか3名
議　事　(1)委員の退任
(2)8月号「広告・看板」（仮称）特集の企画
第13回設備分科会
14日・6時～8時半・於本会会議室
出席者　村上委員ほか5名
議　事　(1)編集委員会の報告
(2)「設備の頁」の企画
(3)10月号「CGによるシミュレーション」特集の企画
(4)新年度設備分科会の構成
第11回広告企画小委員会
22日・4時～5時半・於本会会議室
出席者　荒井委員長ほか5名
議　事　収支状況報告
第10回構造分科会
23日・6時～8時45分・於本会会議室
出席者　二宮幹事ほか3名　吉村英祐・田中直人委員
議　事　(1)編集委員会の報告
(2)「構造の頁」の企画
(3)「構造美」特集の企画

事業委員会

第11回若い会員の集い小委員会
1日・7時～9時半・於本会会議室
出席者　杉本副委員長ほか6名
議　事　(1)今後の予定について
(2)委員の時間
第7回広報小委員会
9日・6時半～8時半・於本会会議室
出席者　原見副委員長ほか7名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
(2)第1・第2分科会からの報告と今後の予定
第7回見学会小委員会
10日・6時～8時・於本会会議室
出席者　南副委員長ほか8名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
(2)実施報告
(3)今後の予定及び候補について
第7回事業委員会
16日・4時～5時半・於本会会議室
出席者　多井委員長ほか6名
議　事　各小委員会からの報告と検討

建材委員会

第7回建材委員会
15日・3時半～5時半・於本会会議室
出席者　和田委員長ほか7名
材料説明：セーフストライド（床すべり上加工）
議　事　(1)今後の検討建材
(2)今後の「新建材紹介コーナー」掲載予定

出版委員会

第11回出版委員会
17日・5時～6時・於本会会議室
出席者　山田副委員長ほか4名
議　事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定
(3)「プロのノウハウ」講座シリーズ
第12回「水にまつわるトラブルの事例・解決策〈建築編〉」小委員会
9日・2時～4時・於本会会議室
出席者　上原小委員長他7名
議　事　全体の最終チェック
第10回「水にまつわるトラブルの事例・解決策〈設備編〉」小委員会
9日・3時～6時・於本会会議室
出席者　川崎小委員長他11名
議　事　全体の最終チェック

教育委員会

第40回工高生デザインコンクール募集規程作成会
8日・6時～8時・於本会会議室
出席者　川道審査員長他13名、片倉教育委員長他5名
議　事　(1)第40回工高生デザインコンクール募集規定の検討
(2)今後の作業予定
第2回教育委員会
23日・6時～7時半・於本会会議室
出席者　片倉委員長ほか12名
議　事　(1)講習会・工高生教育両小委員会の本年度事業報告
(2)次年度事業計画
(3)次年度の委員編成について

見学会

アジア太平洋トレードセンター見学会
23日・2時～5時・参加者98名
常滑と志摩「早春の伊勢湾を巡る」
25～26日・参加者42名
プロのノウハウ講座
第11回構造計画と躯体コストについて
いま積算に求められているもの
29日・3時～5時30分・於大阪府建築健保会館・多目的ホール　参加者　148名
講　師　須賀好富氏（近畿大学教授）
生島道春氏（(株)日積サーベイ代表取締役）

30'sEYE　21世紀へのエスキス

岸　和郎「DIE　HARD　MODERNISM」
31日・6時半～9時・参加者47名

建築クラブ

第263回朝食会
8日・8時半～10時・於大阪グランドホテル
演題　「頭動けば尾も動く」
講師　佐藤安弘氏（元・日刊スポーツ取締役）
建築クラブ役員会
31日・12時～1時・於本会会議室
出席者　佐野代表ほか11名
議　事　(1)役員半数交代と正副委員長互選の件
(2)平成5年度収支決算承認の件
(3)平成6年度収支予算承認の件
(4)今後の講師決定の件

4月の入会者（敬称略）

〔個人会員8名〕

井本健太郎（松村組）　木元　孝裕（松村組）　後藤　謙志（松村組）
丹下　敏幸（松村組）　佐野　隆雄（住友建設）　志多　美裕（志多美裕建築(事)）
松岡　一郎（アイエム）　森川　哲治（日創設計）

●会員の訃報

名誉正会員　佃　忠夫　5月9日死亡
正会員　山田　誠　3月22日死亡
〃　浅田孝夫　4月30日死亡

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59 電話 06(302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社

大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営 業 所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出 張 所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58 1511

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661(代表)
本　　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－3211－8511(代表)

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
大阪支店長　三田村嘉也

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話06(202)3071(代表)
本　　店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(3502)6111(大代)
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号　電 06－466－2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720－49－2128

空気調和設備
衛生設備設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131代
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03－3344－1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06－363－1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡
営 業 所　札幌・松江
出 張 所　青森・秋田・盛岡・大宮・千葉・川崎・富山・福井・和歌山・鳥取・岡山・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある

「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切

株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530
TEL(06)312-4131　FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎・京都

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
郵便番号542　電話 大阪（06）768－5031　代表
メンテナンス部　電　話　大阪（06）　768－　1651　代表
東京支店　東京都文京区小石川1丁目12番14号（日本生命小石川ビル7階）
郵便番号112　電話（03）5689－2351代表

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長　依　藤　孝　行

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号　TEL(06)351－5428(代)
FAX(06)351－5299

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681)5101～5・夜間専用(691)1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話 (06)352-3501㈹
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26-3610㈹
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53-7431㈹
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22-9738㈹

Carrier 冷暖房は CARRIER キャリア

東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

夢×技=∞ 無限大

何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術

電気・計装・空調・土木

栗原工業株式会社

本社/〒530 大阪市北区角田町1-1 (東阪急ビル)
TEL 06(313)1101

創業1919

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山本貴士

本　社　大阪市北区中之島3－2－4　朝日ビル　TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所　TEL 大阪06(385)1361(代)　京都営業所　TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所　TEL 東京03(3574)0665　福岡出張所　TEL 福岡092(771)6168

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役 土井敏裕

本　社　大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル5階)
電　話　06(361)3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　03(3666)1478(代)
営業所　堺・泉　州・泉　南・滋　賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

関西支社

支社長 馬田栄

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話 大阪(202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

人と都市の快適な環境をつくります

営業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電

まだ見ぬあふれるクリエイティブカンパニーをめざす。

住友電設株式会社

大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06) 537-3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工

三宝電機株式会社

SANPO

取締役社長 嘉納秀一

本　社　〒530 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル)　TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社　〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル)　TEL 03(3504)0231・FAX 03(504)0268
名古屋支店　〒462 名古屋市北区金城3-12-14　TEL 052(991)5131・FAX 052(914)7535
神戸支店　〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル)　TEL 078(881)5571・FAX 078(871)6261
堺研究所　〒590 大阪府堺市三宝町七丁369　TEL 0722(27)8408・FAX 0722(27)1424

＊奉仕感謝の店

タイル及び規格石一式施工

株式会社 川岸窯業商店

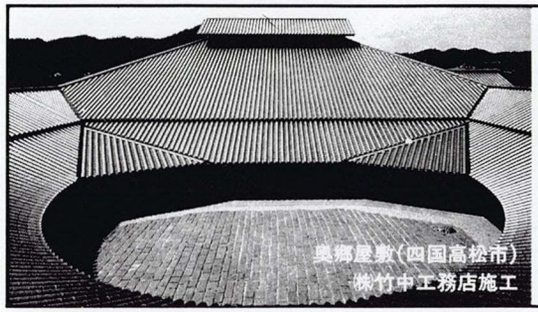
本　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06－532－0461(代表)
FAX.06－535－5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

学校建築のトータルアドバイザー

二葉工業株式会社

黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5
TEL 06(792)5858　FAX 06(792)2810



奥郷屋敷(四国高松市)
㈱竹中工務店施工

ナニワ瓦株式会社

〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
☎ 五六一～七四一六
ファックス 五六一～七四五四

あらゆる屋根工事の相談は、

新鮮

情報処理／編集・企画／印刷・製本

ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。

ND

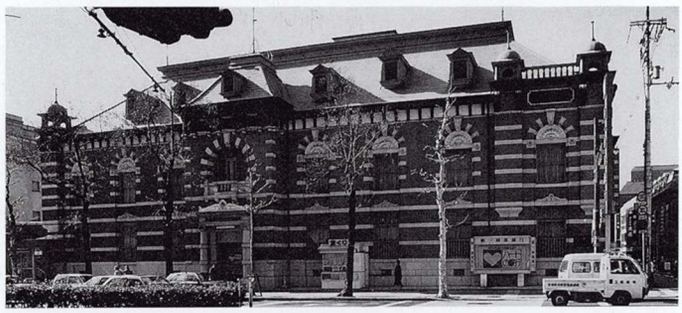
日本電植株式会社

〒530 大阪市北区天満1丁目19番4号 センチュリーパーク東天満3・4F
TEL. 06-352-7502㈹ FAX. 06-352-7486

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－１
TEL(０７２９)３９－３６１０
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町２７４４
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木３－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)



デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

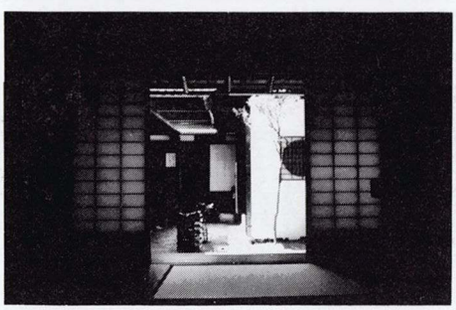
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（０７７２７）２－２２２０
舞鶴（０７７３）７６－０１３３

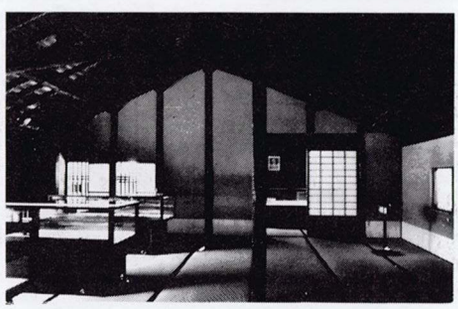
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）３２７２－８５０１

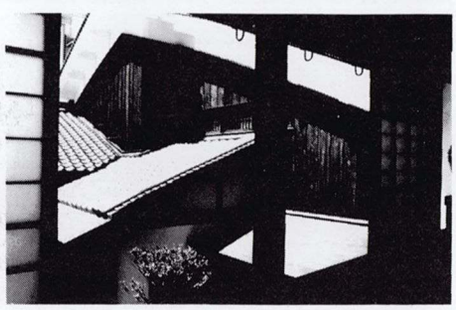
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１

光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（０７７５）８３－２３８１
TEL 大阪（０６）８７７－１５８１







OM

テトカッパー防水層

カッパー防水帯 ―――― コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264

大阪事務所 TEL06(391)1081～2 FAX 06(395)2109　名古屋出張所 TEL052(811)3660

横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所 TEL0462(21)1761 FAX0462(23)1341

埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878 FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区南新町1－2－10(TSビル)

TEL(06)943－6571(代)

■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

プロのノウハウ　四六判・224頁　定価1700円

上村 武(財)日本住宅・木材技術センター顧問)著

木づくりの常識非常識

主な目次

Ⅰ木造住宅の住みごこち
木は調湿の主役/木は熱を伝えにくい/木の床はダニにきらわれる/木の家の結露/人にやさしい木の感触/建物と放射線　他

Ⅱ木造住宅の強さ
木造住宅と地震/木材を他の材料とくらべると/背高木造/住宅の性能を保証する　他

Ⅲ木造住宅は長持ちするか
建築材料の老化のしくみ/木造住宅の寿命/火に強い木造/鉄やアルミが燃える/鉄を木で保護する/虫に食われる/シロアリの話　他

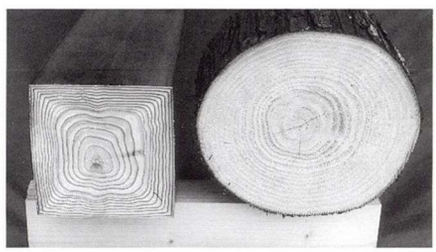
Ⅳ新しい木材
集成材LVL/新しい板材料/木の粘土細工/狂わない腐らない木材　他

Ⅴ木は生きている
赤ちゃん木材/木の伸び縮み/木のかおりの薬効/熱帯雨林の消失/「木を切るな」は誤り/木はかけがえのない栽培資源　他

木と木材を愛する人々へ 木づくりの蘊蓄50話

知っているようで知らない木の特性や木づくりのあり方を，木材のもつ長所の生かし方，短所の補い方と共に情熱を込めて紹介．特に木と木づくりについての誤解や偏見を，多くの実例をあげることによって解消することを試みた．さらに，林業と環境問題，地球の温暖化問題に対する木の役割などまで，わかりやすく蘊蓄を込めて言及した．





企画／日本建築協会

〒600　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
☎ 075-343-0811　振替/京都0-26789

㈱学芸出版社

建築と社会
第75輯5号

TOSHIBA

エネルギーとエレクトロニクス
E&Eの東芝

都市空間のアメニティは、多彩な表情をしています。

人と環境のあたたかなふれあいをテーマに開発されたエレメイト・ルミナス。
高品位な居住性と多彩なバリエーションで、ビルの個性に幅広く対応します。



SDX-4　　SDX-5



●人と環境の美しい調和をモチーフに設計された、ゆとり感覚あふれるニューデザイン。
●快適な移動のために情報システムで制御された数々のインテリジェント機能を搭載。
●ヘリカルギヤを新採用し、大幅な省エネルギー化とランニングコストの低減化を実現。
●IGBTの採用と制御回路のデジタル化により、より静粛で滑らかな走行性能を発揮。

人と環境のあたたかなふれあい
東芝ニューコンセプト標準形エレベーター

エレメイト ルミナス◆
Luminous

●お問い合わせは… 株式会社 東芝 昇降機事業部　本社 〒105-01 東京都港区芝浦1-1-1(東芝ビルディング) ☎(03)3457-4613
北海道支社(011)214-2451　東北支社(022)264-7640～1　東関東支社(043)299-1017　神奈川支社(045)664-8611　北陸支社(0762)24-2815　中部支社(052)564-8510～4
関西支社(06)440-2261～3　中国支社(082)246-3090～1　四国支社(0878)25-2440～2　九州支社(092)735-3056

雑誌 03379-5

社団法人 日本建築協会 〒530 大阪市北区梅田1の1の3の2100 電話大阪06(348)0635 FAX06(348)0634
振替口座 大阪一三九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価1,200円(本体1,165円 消費税35円 送料共)